

マンガふるさとの偉人

北海道へ渡った亘理伊達家の殿様

伊達邦成

みやぎけん
—宮城県—

わたり ちょう みやぎ けん なんとう
亶理町は宮城県の南東
部にある人口3万人ほど

まち
の町です。

ふゆ ひ かくてき
冬は比較的あたたかく、

なつ ここ ち うみかぜ あつ
夏は心地よい海風が暑

さを和らげてくれる、と
てもくらしやすい所
です。



とうほくいち
東北一の
せいさんりょう ほん
生産量を誇り
「仙台いちご」

として
した
親しまれている

ぜんこく
いまや全国に
し
知られる
あらはまち く はっしょう
荒浜地区発祥の
きょうどりょうり
郷土料理



わたり あぶくまがわ ながん
亶理は阿武隈川の南岸にあり、
かわ「わた ち
川を「渡る地」として「わたり」と
いう地名になったといわれてい
ます。

えど じだい わたり だて け ち せい
江戸時代は、亶理伊達家の治世
のもと城下町が築かれ、いまでも
いたる所にその風情を見ることが
できます。

わたり ちょう
亶理町って
ところ
こんな所



北海道へ渡った亙理伊達家の殿様

伊達 邦成

亙理町の紹介	1
--------	---

目次	2
----	---

第一章 亙理を治めたお殿さま	3
----------------	---

第二章 伊達邦成と戊辰戦争	15
---------------	----

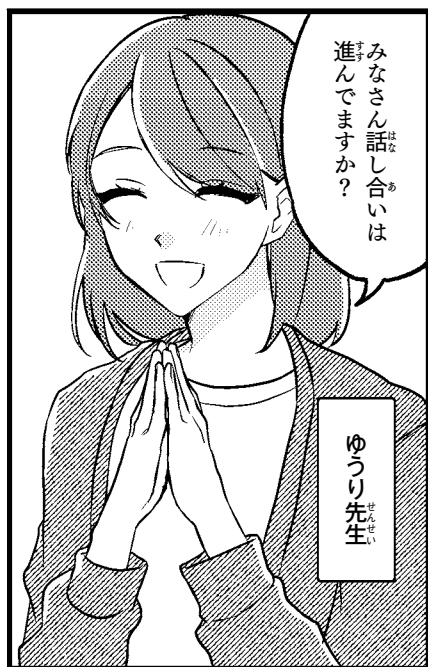
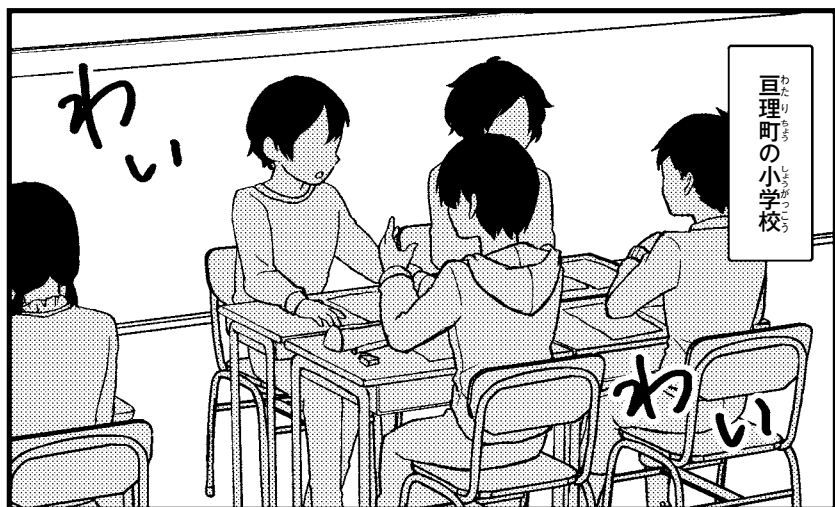
第三章 北の大地を開拓せよ！	41
----------------	----

第四章 苦難の果てに	65
------------	----

第五章 受け継がれるもの	85
--------------	----

資料編	93
-----	----

第一章 巨理を治めたお殿さま



北海道伊達市について

そうなの！
よく覚えてましたね！

先生は
北海道伊達市の出身です

伊達市



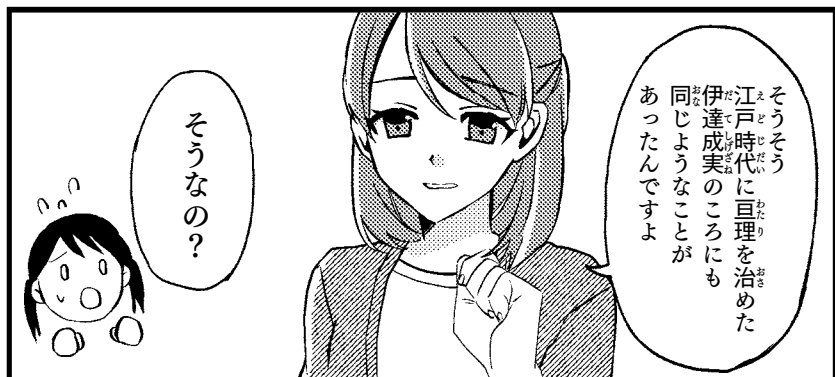
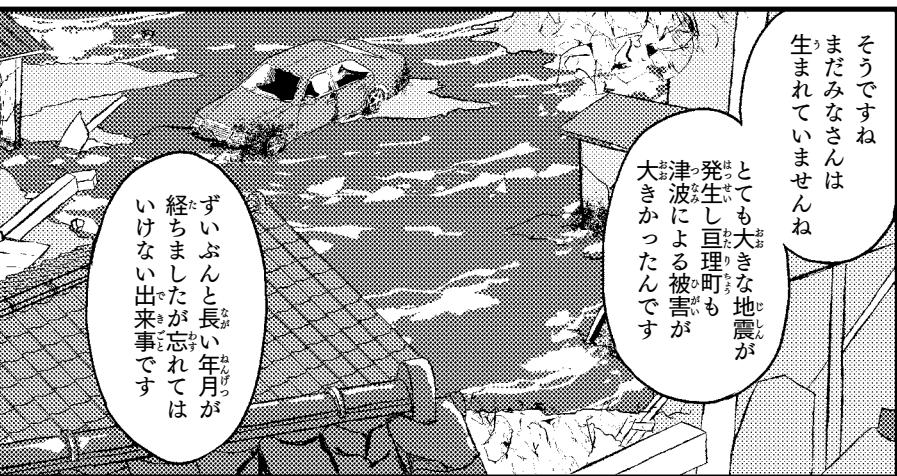
もともとは伊達市に
いたんですが

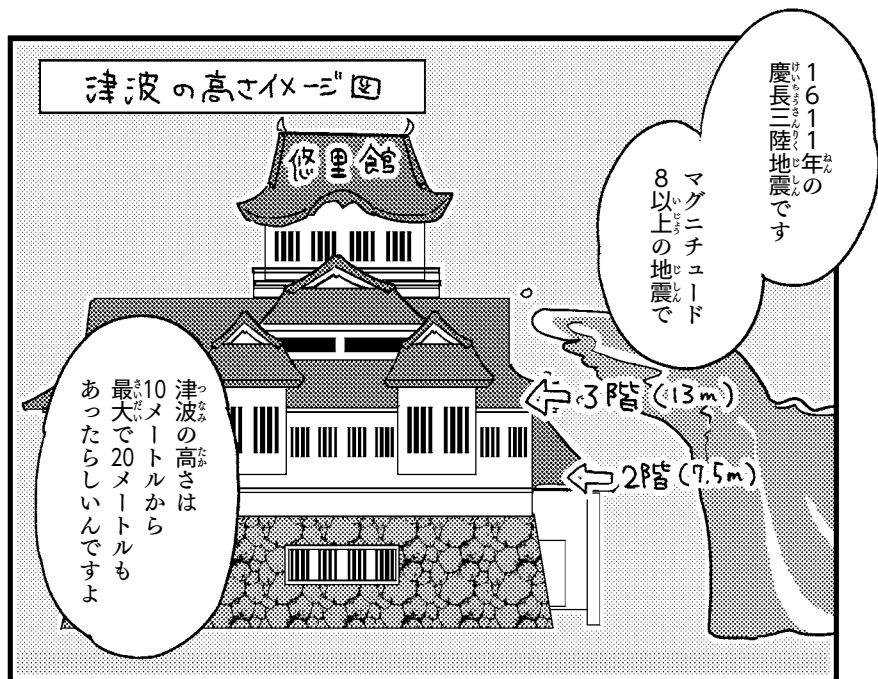
2011年の東日本大震災を
きっかけにボランティアで
巨理町に来たんです

東日本大震災

2011年(平成23)3月11日に
発生した東北地方
太平洋沖地震および
これに伴う災害のこと

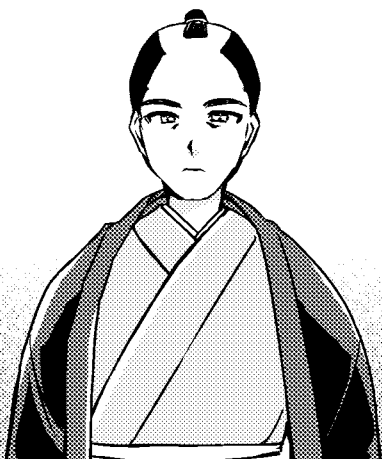






伊達成実
巨理伊達家で最初に
巨理を治めた人物

戦国時代後期（1580年代）から
江戸時代前期（1640年代）に
かけて活躍した



仙台藩62万石を開いた
初代藩主伊達政宗の重臣で
政宗の従兄弟にあたる

成実の方が
一歳年下である



成実が使っていた
兜の前立は毛虫を
表現している※

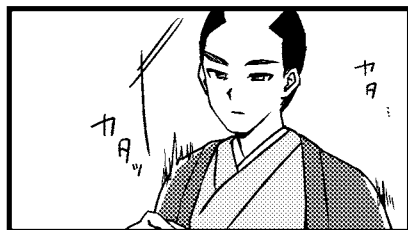


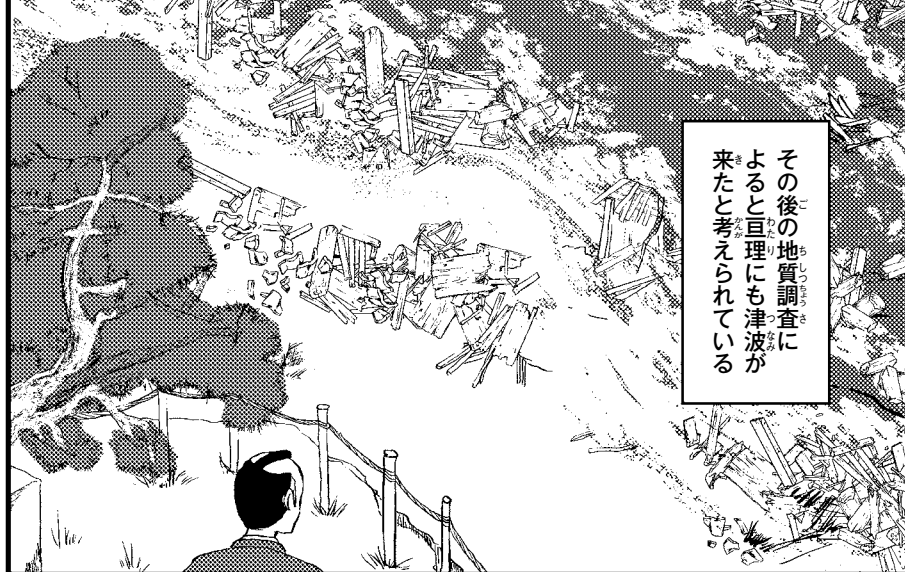
※毛虫は「決して後退しない」という心意気を表した
といわれている



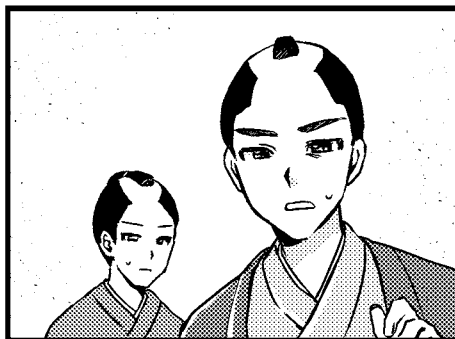
1602年（慶長7）
伊達成実が
巨理の領主になる

前任者は片倉小十郎景綱
同じく政宗の重臣である





その後の地質調査に
よると巨理にも津波が
来たと考えられている





※1石^{いし}は1000合^{ごう}のこと





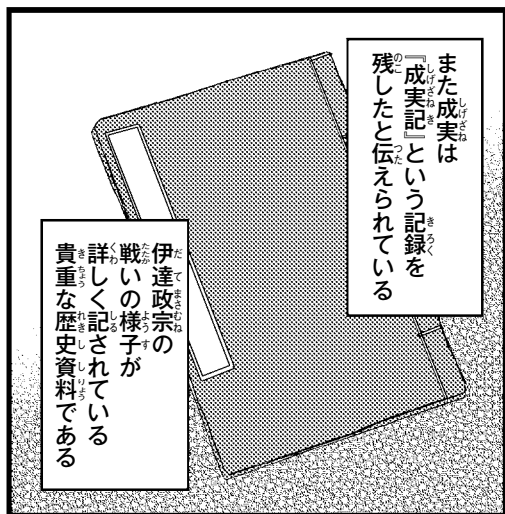
その後も
成実は
亙理の町割りを整え
城下町をつくり

神社や寺の整備

治水・用水工事や
塩田開発など
様々な事業に取り組んだ



このような成実の
活躍のおかげで
亙理は発展しました

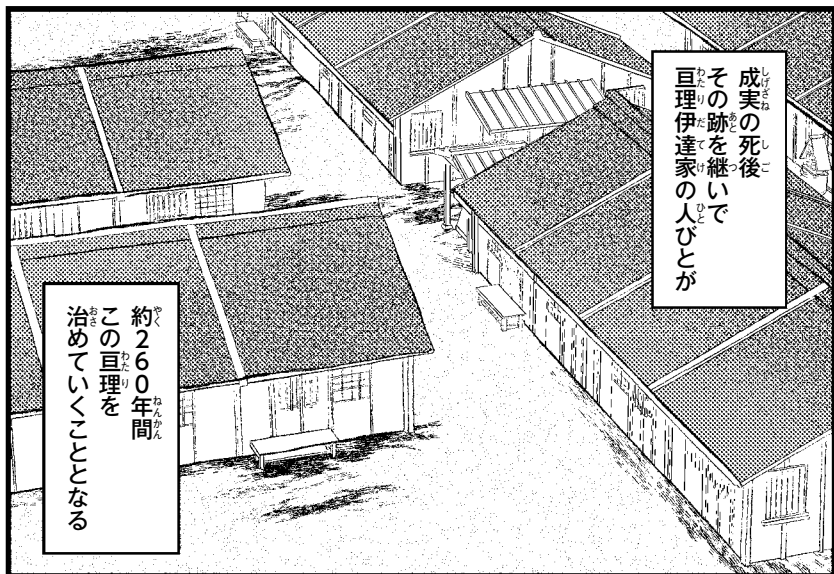


また成実は
『成実記』という記録を
残したと伝えられている

伊達政宗の
戦いの様子が
詳しく記されている
貴重な歴史資料である



そして成実は
1646年（正保3）
79歳で亡くなった

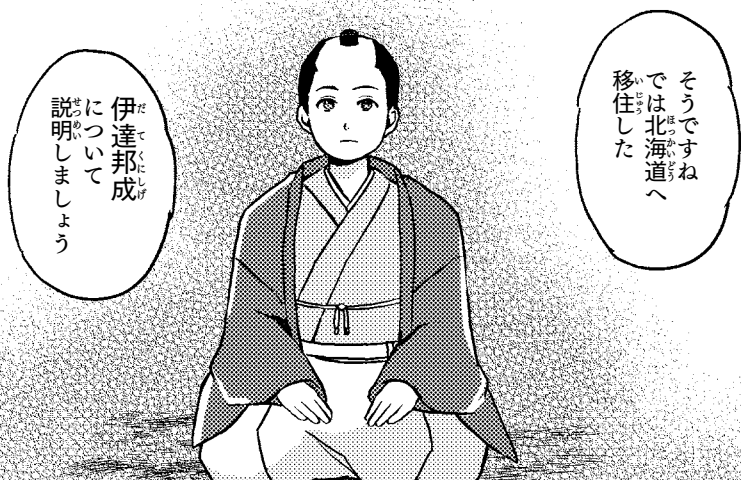
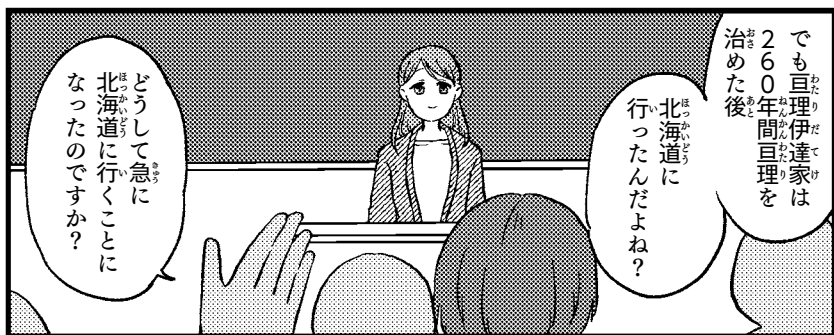


成実の死後
その跡を継いで
巨理伊達家の人びとが

約260年間
この巨理を
治めていくこととなる

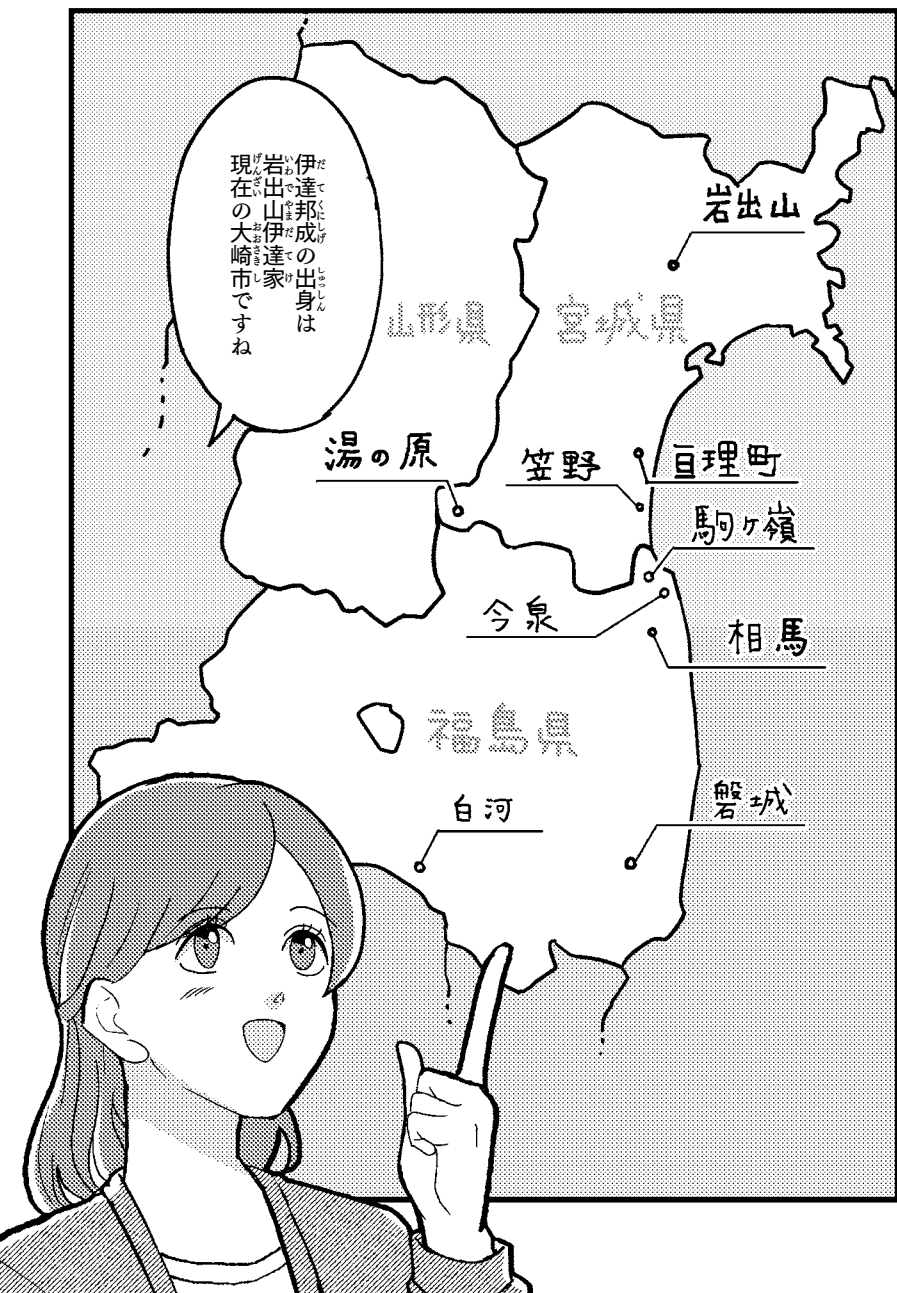


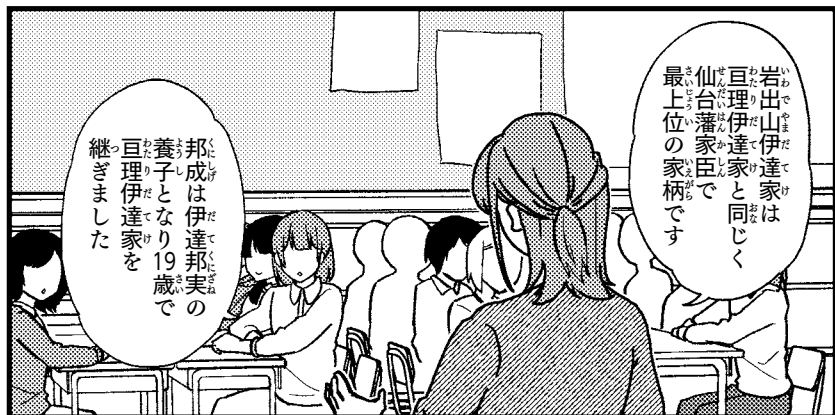
江戸時代をとおして
巨理での米の生産量は
仙台藩の中で
一番多くなっていた



だいにしょう
第二章

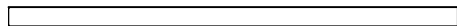
だてくにしげ ぼしんせんそう
伊達邦成と戊辰戦争





岩山伊達家は
巨理伊達家と同じく
仙台藩家臣で
最上位の家柄です

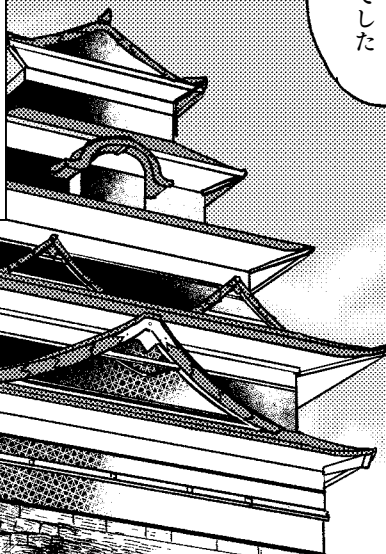
邦成は伊達邦実の
養子となり19歳で
巨理伊達家を
継ぎました

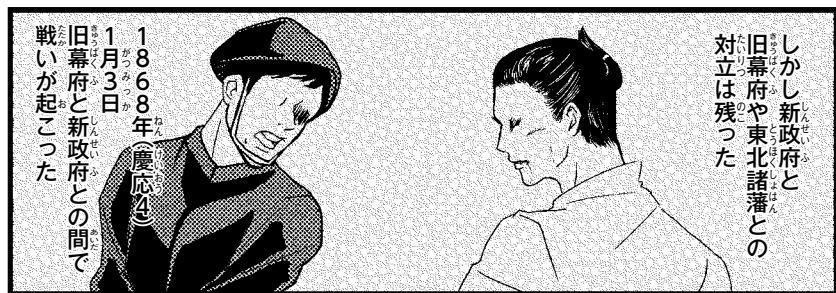
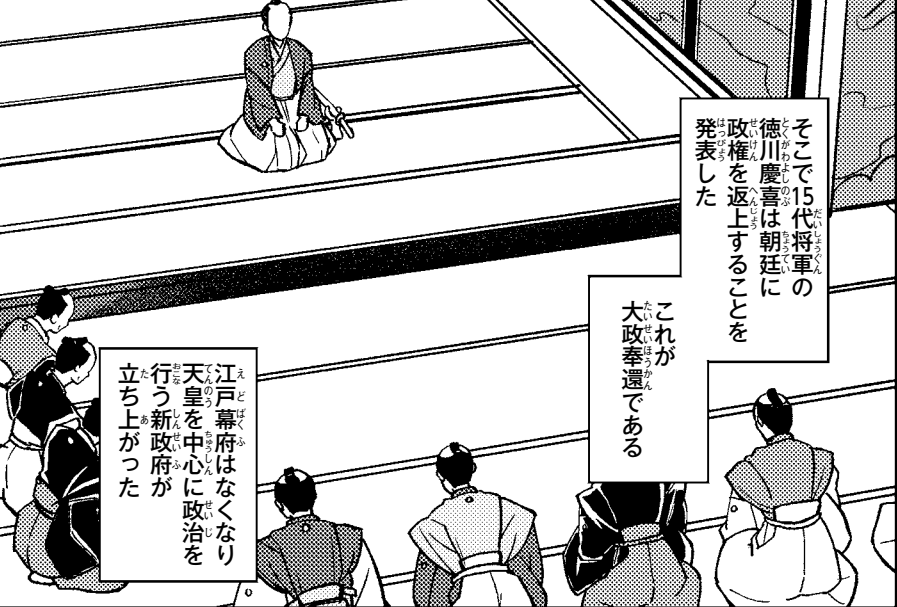


邦成が巨理伊達家を
継いだとき

時代は大きな
転換期でした

このころ
江戸幕府の力は
弱まっていて
薩摩藩・長州藩と
幕府が対立していた

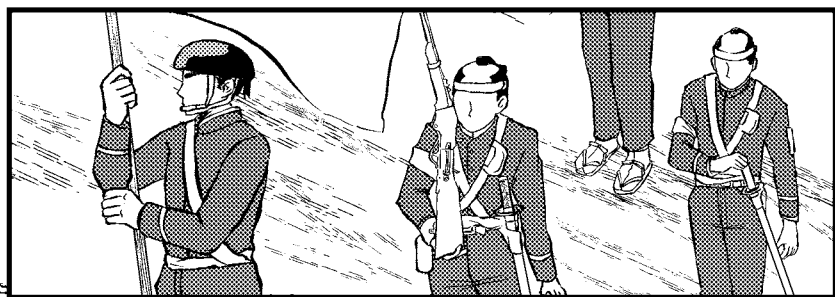




新政府は旧幕府を支えてきた会津藩を標的とみなし東北の藩に会津藩を討つよう命令した

仙台藩は新政府に對して会津藩を許すよう働きかけたが

新政府の態度は変わらなかった



最初仙台藩は新政府に従うことを示すため

邦成に1800人の兵を率いて湯の原へ形だけの出陣をさせた

邦成28歳



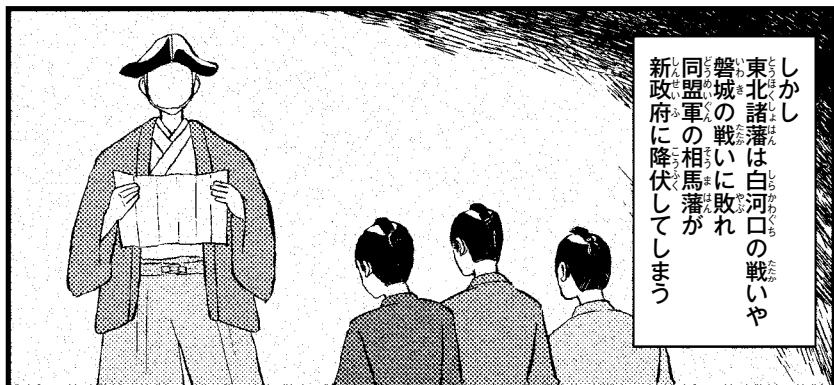
会津藩が許されない
ことがわかると東北の
藩は次第に新政府との
対立を深めていく

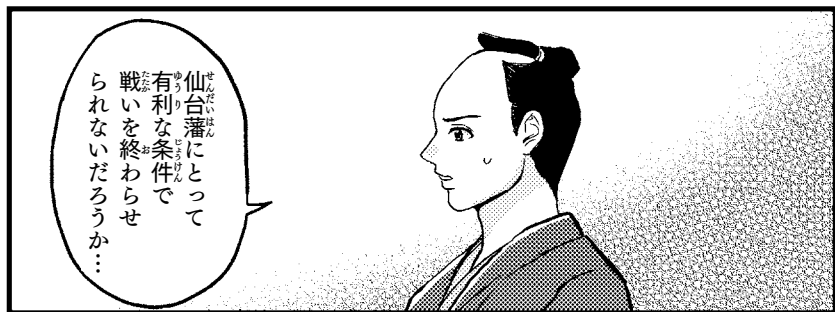
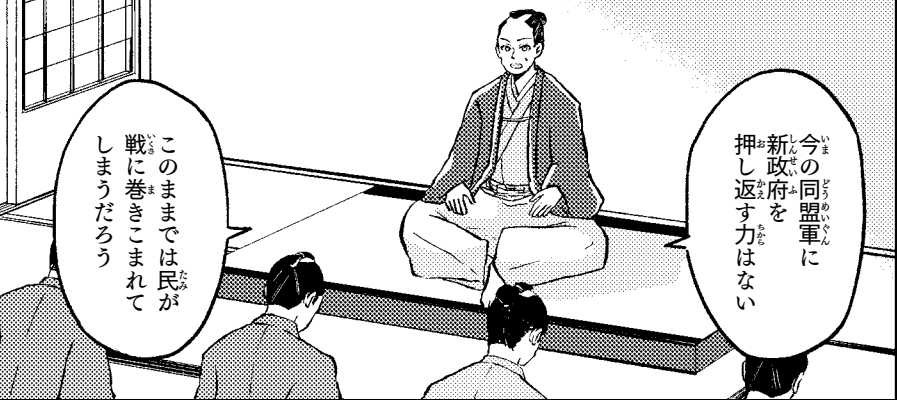
やがて会津藩を
助けるために
仙台藩を中心に
東北の藩が手を組み

「奥羽列藩同盟」※が
結成され同盟軍は
新政府との戦いを選んだ

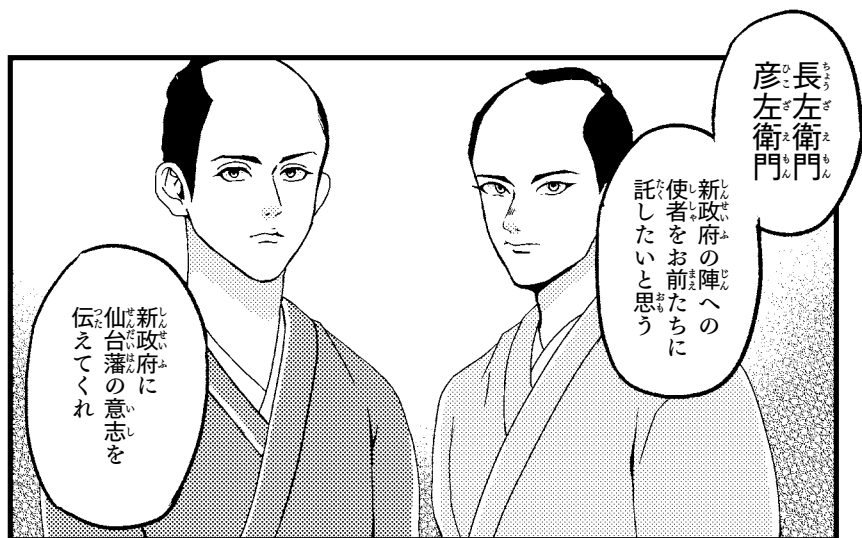
伊達・仙台・松平は
仙台藩の主力として
新政府と戦うことになる

※のちに奥羽越列藩同盟

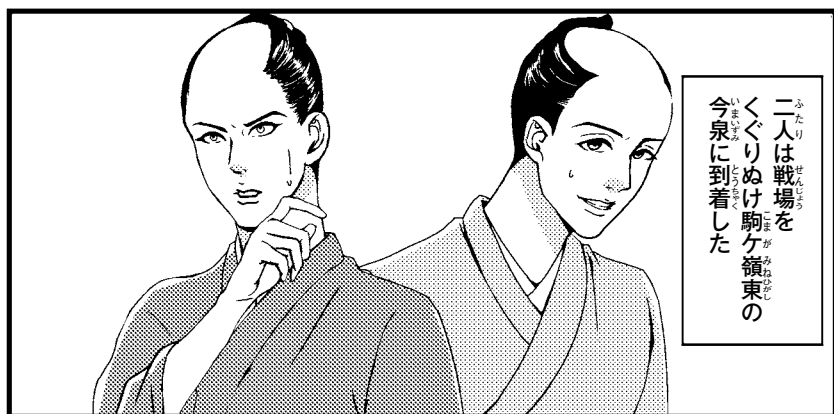
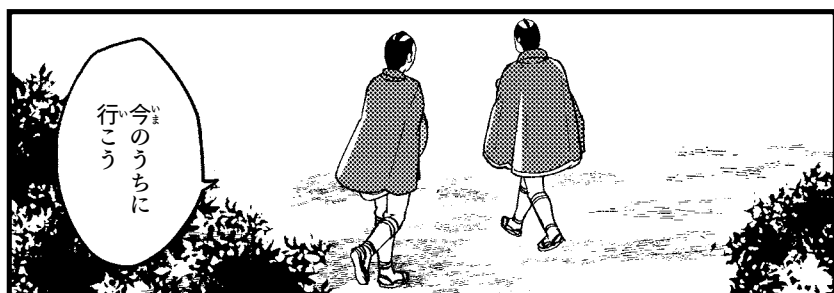


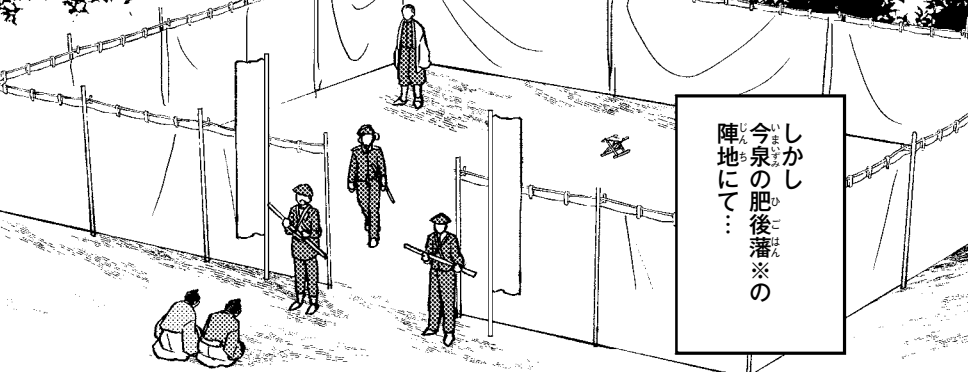


※降伏すること



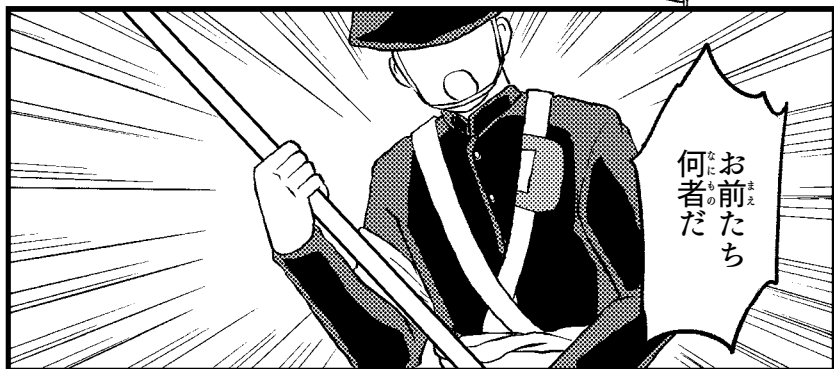
※他人同士が本物の兄弟になるために交わす約束のこと





しかし
今泉の肥後藩※の
陣地にて…

※新政府側



お前たち
何者だ



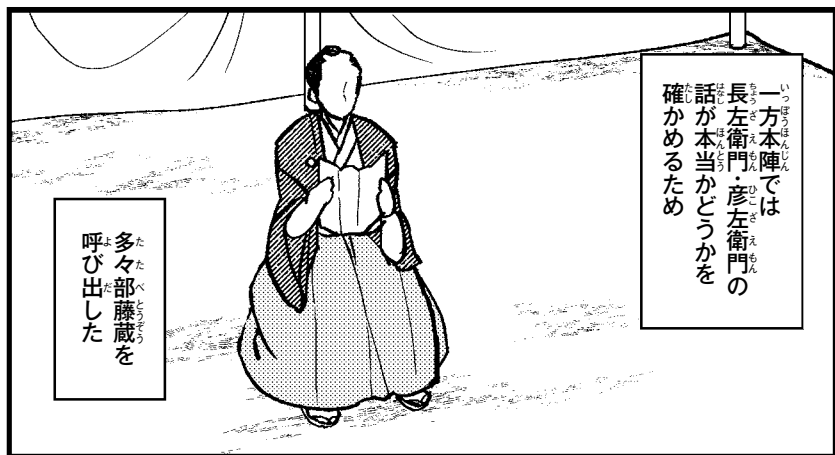
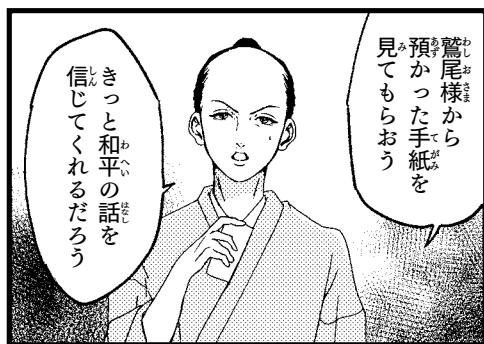
隊長様に申し上げます
どうかお取次ぎを

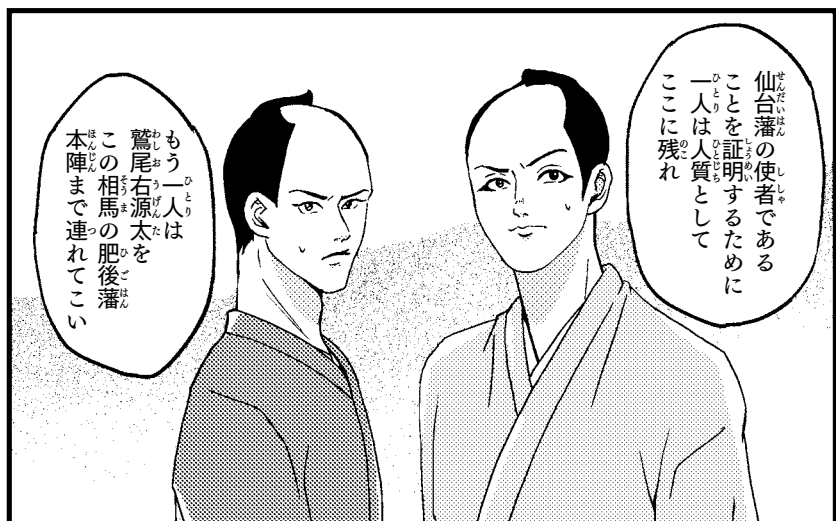


我われは仙台藩
亘理の百姓

長左衛門と
彦左衛門と申します







期限は8月20日だ

こうして長左衛門が
鷺尾を連れて
くることになった

彦左衛門よ
私は必ず戻ってくる

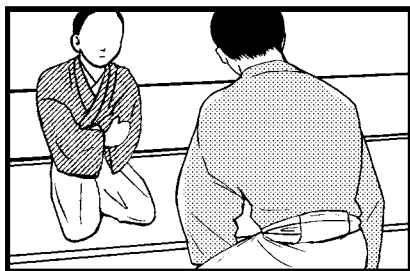
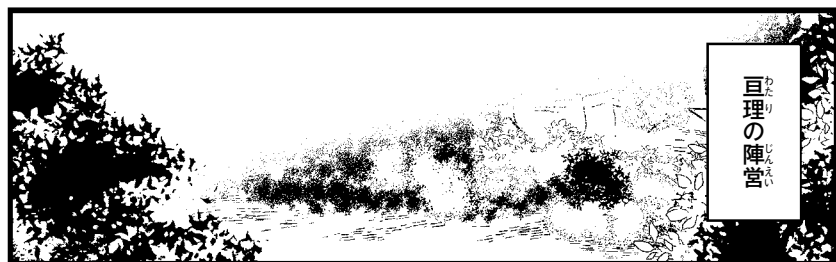
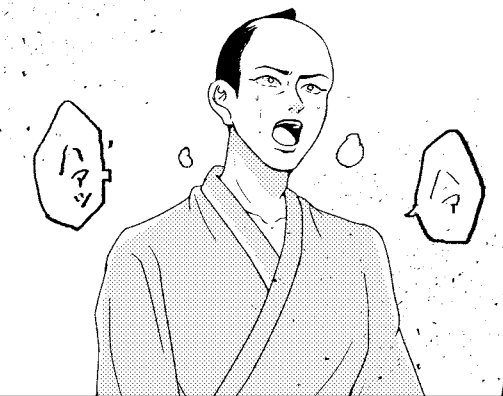
私を信じてくれ

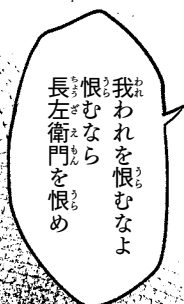
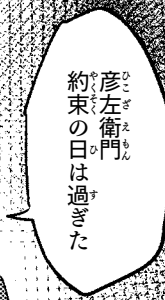
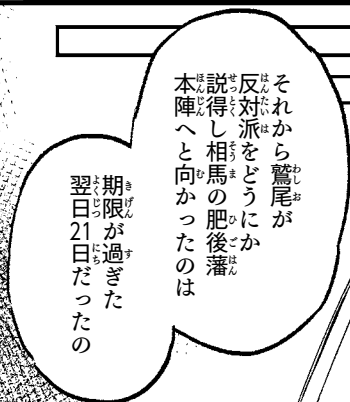
…もちろんだ

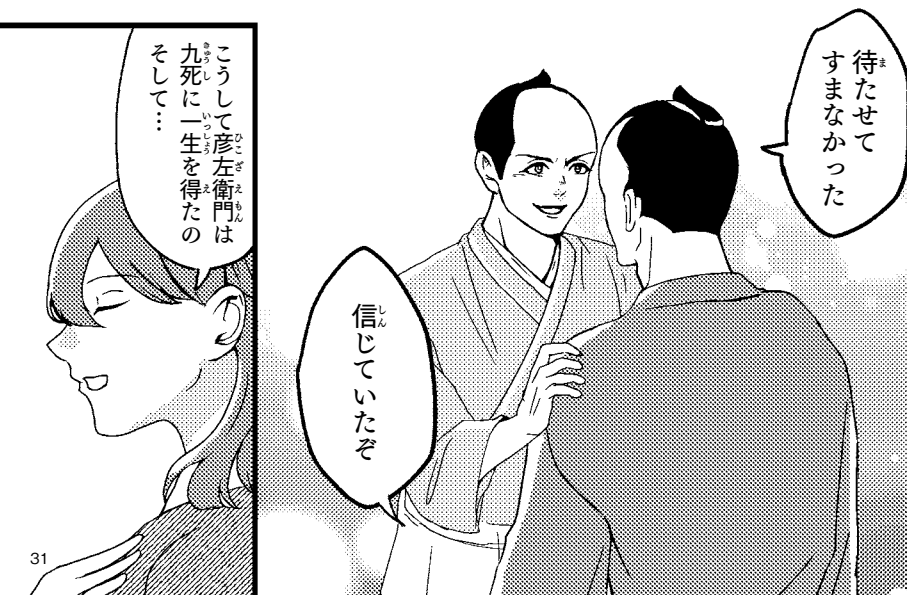
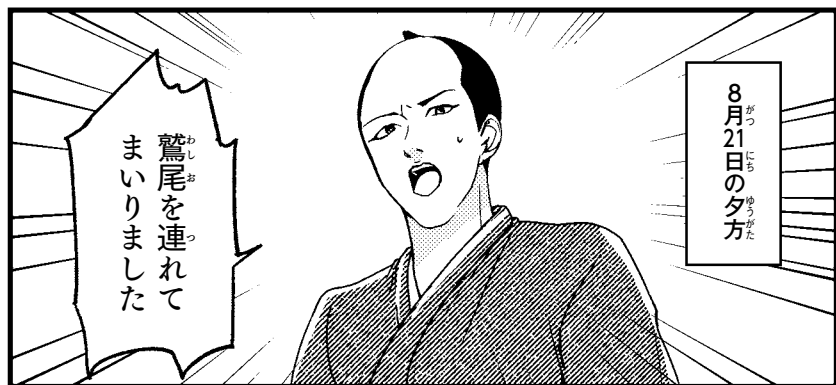
期限の8月20日までに
帰らない場合は
人質の彦左衛門は
殺されてしまう

必ず 必ず

鷺尾様を連れて
戻ってくるからな







この二人の使者の
おかげで

その年の9月24日に
巨理の地※で
仙台藩の負けを示す
降伏式が行われたの

その後戊辰戦争に
敗れた藩には処分が下され
仙台藩は62万石から
28万石に減らされました



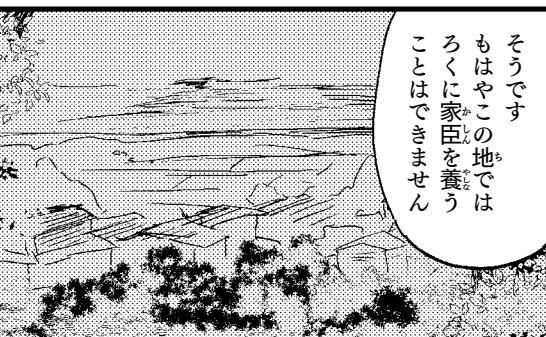
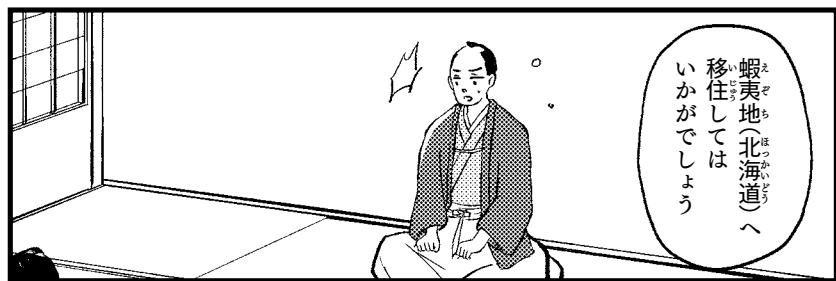
それによって
巨理伊達家は
約2万4000石から
わずか58石に
減らされてしまったの

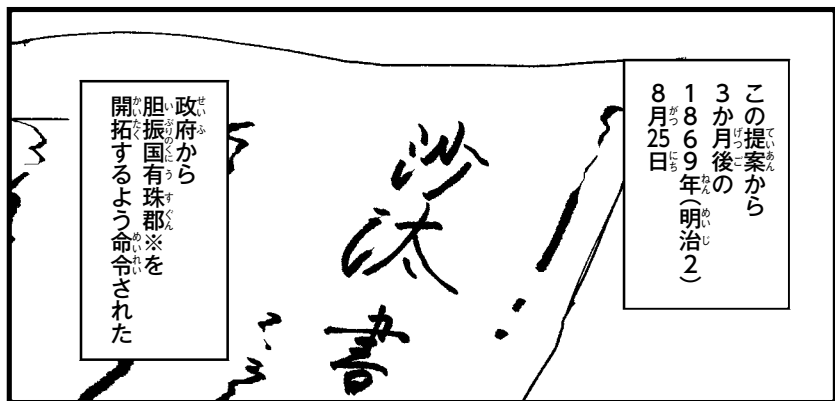
2万4千石

↓
58石

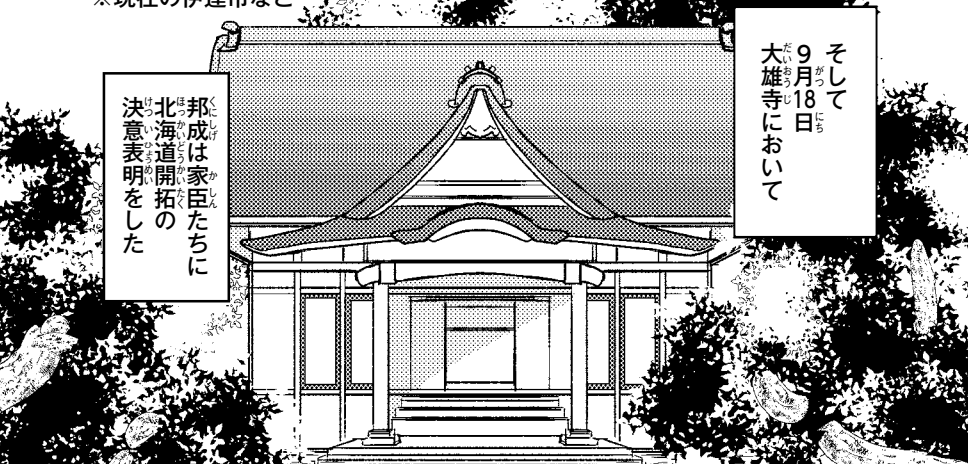
巨理の地は新政府に
取り上げられ
盛岡藩主であった南部家が
支配することになりました







※現在の伊達市など



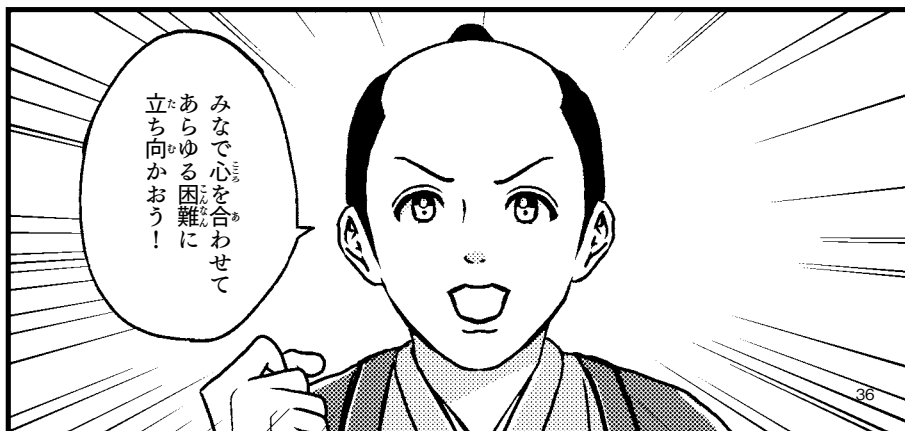
昨年^{さくねん}の戊辰戦争^{ぼしんせんそう}では
誤^{あやま}った選^{せん}拔^{はく}をしてしま
い
巨理^{こり}伊達家^{いたてけ}を苦し
い
状^{じよう}況^{きやう}にしてしまつた

このままでは
ご先祖^{せんぞ}に顔^{かお}向^むけできない

だからこそ国^{くに}のため
に
行^う動^{どう}すること
で罪^{つみ}を
つぐなおうと考^{かんが}えてきた

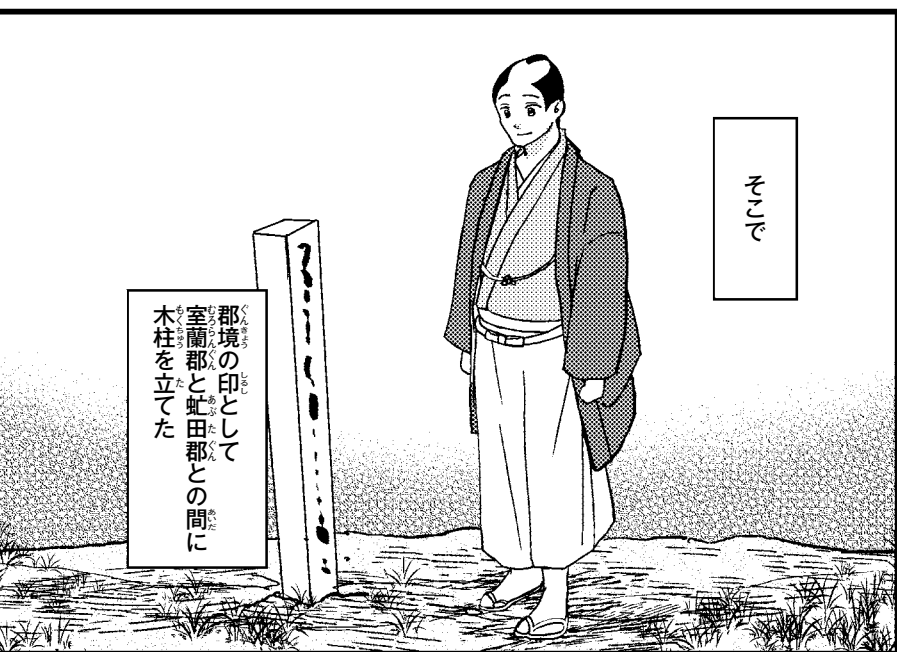
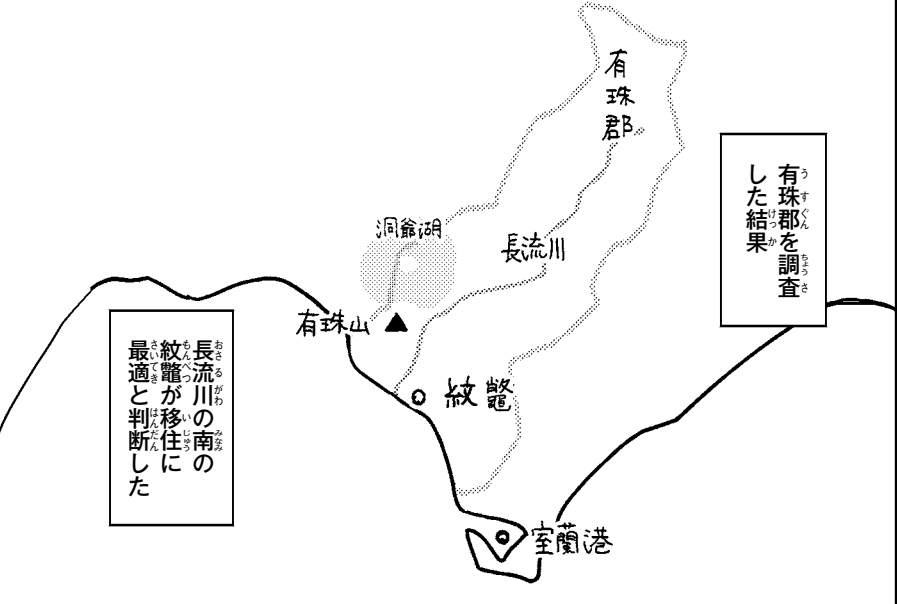
そして
今^{こん}回^{かい}我^{われ}れに
北^{ほく}海^{かい}道^{どう}開^{ひらく}拓^{たく}が命^{めい}じられた

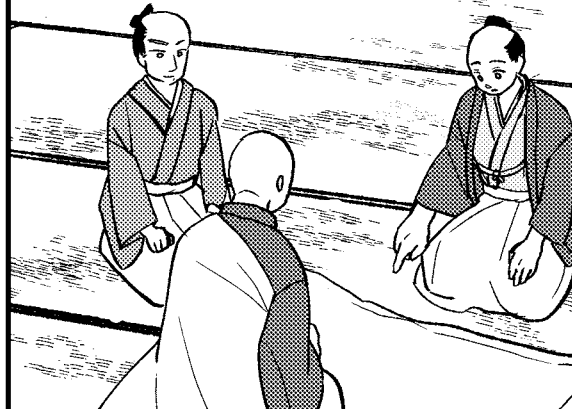
これでようやく
汚^{おとめい}名^{めい}をす
すぐことが
できる











有珠会所※の
近くには長い歴史を
持つ善光寺があり
開拓の場所を決めた後
邦成はその善光寺を訪れ
住職と今後の移住計画に
ついて話し合った

※アイヌの人びとと和人が物の交換や売買を行う場所



そして有珠会所に
和人やアイヌの人びとを
招き亘理から有珠への
移住が行われること

亘理の人びとに
力を貸してほしい
ことを伝えた

亙理に居った
邦成は家臣たちと
話し合い

移住の方向性に
ついて次の六つを
決定した

一、

第1回の移住は

1870年(明治3)に

出発すること

寒風沢島から船で室蘭へ渡る

二、

移住する人数は

60世帯の男女250人とすること

三、

家のあるじは妻を

連れて行くこと

独り身の者の移住は許可しない

ただし、親子兄弟が

一緒の場合は許可する

四、

60世帯のうちには

木挽き・桶屋・鍛冶屋・漁師を

3人ずつ連れて行くこと

五、

士族は身分を一つ上げ

卒族は士族に格上げすること

六、

移住してから一年以上

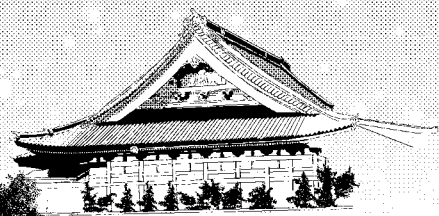
食べられる量の米を用意すること

移住で大切な
ことは家族同士
支えあうこと…

ひとりでは困難な
ことも家族と
一緒ならば乗り越え
られるだろう…！



12月大晦日
がつおみそか



邦成は家臣たちを
大雄寺に再び集め

有珠郡の調査結果を
説明し移住への
決意を誓った

邦成29歳

この移住には
政府からの資金は
出されなかった

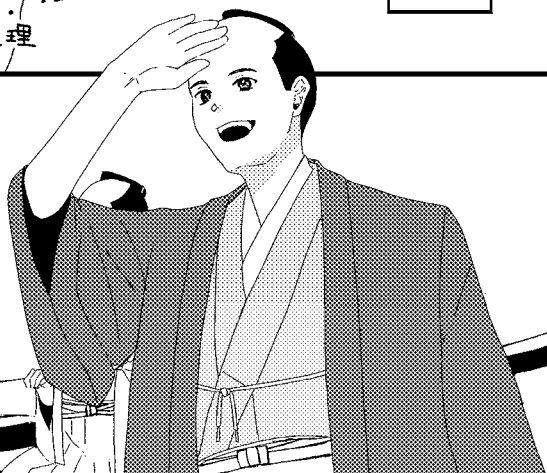
そのため邦成は
先祖伝来の貴重な
武器や美術品などを
売り払い移住のための
資金を用意した

1870年(明治3)4月

寒風沢島

巨理

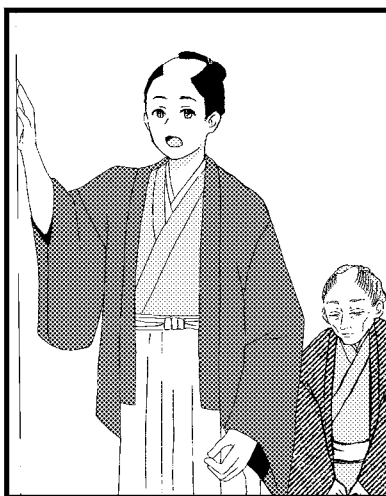
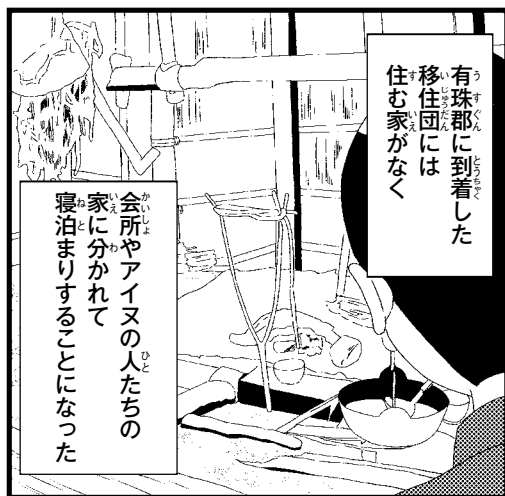
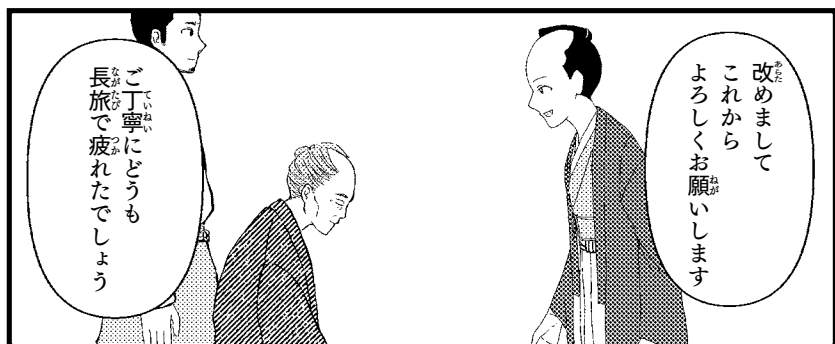
寒風沢島を出発し
室蘭港に上陸した
第一回移住団が
有珠郡に到着した

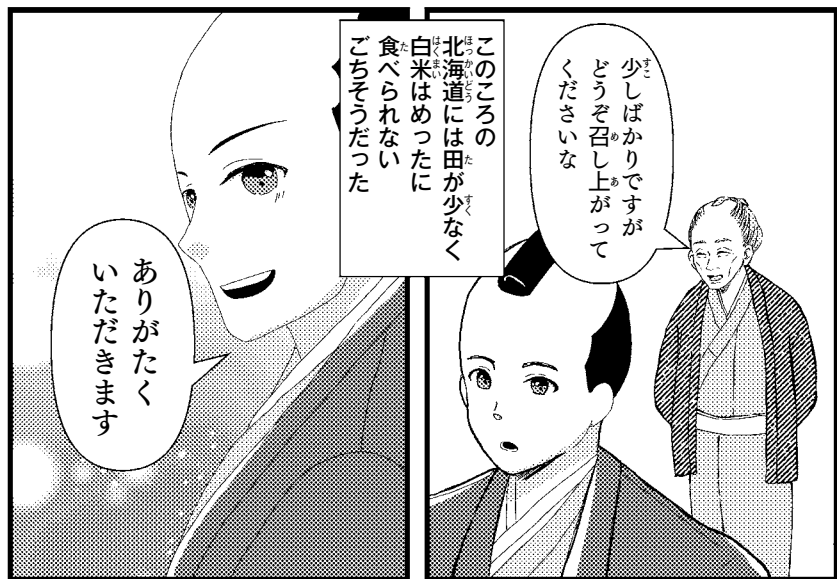


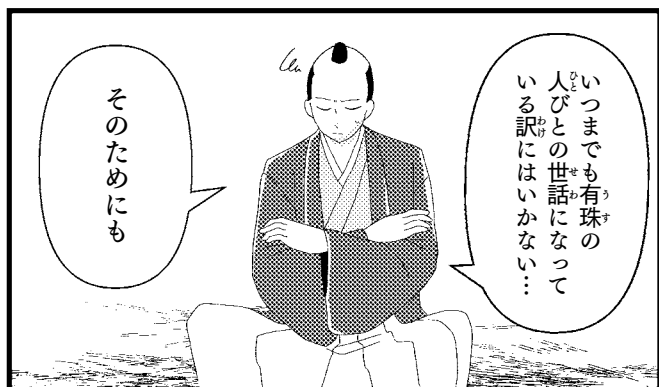
おお

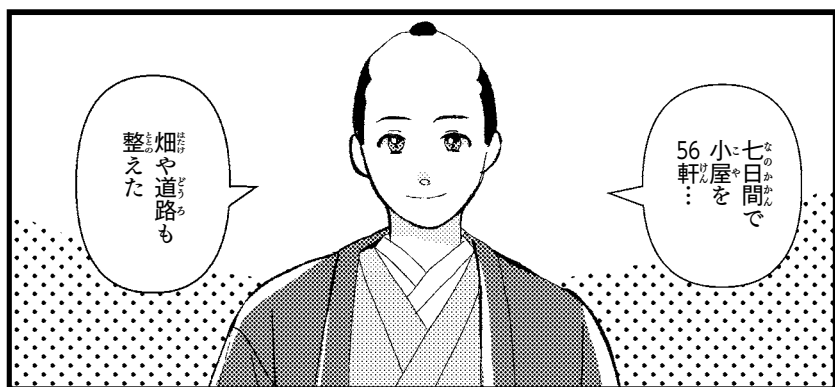
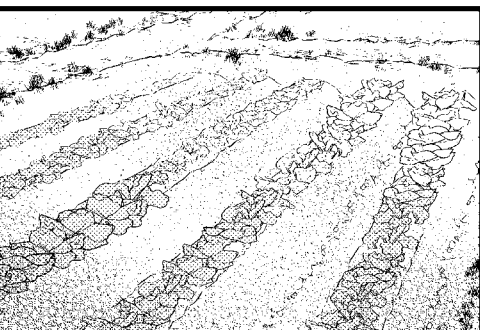
みなさまようこそ
いらっしゃいました

有珠郡の人たち

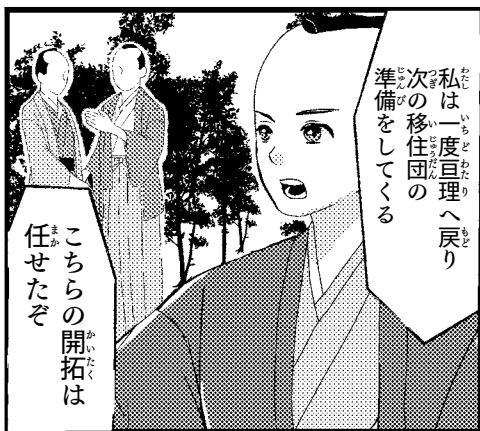


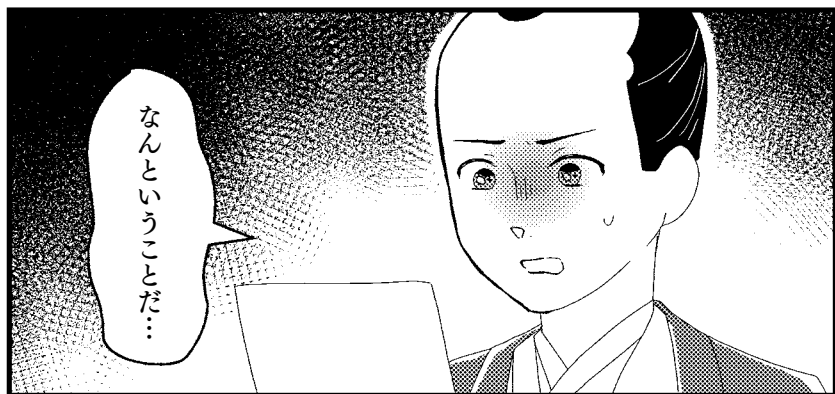
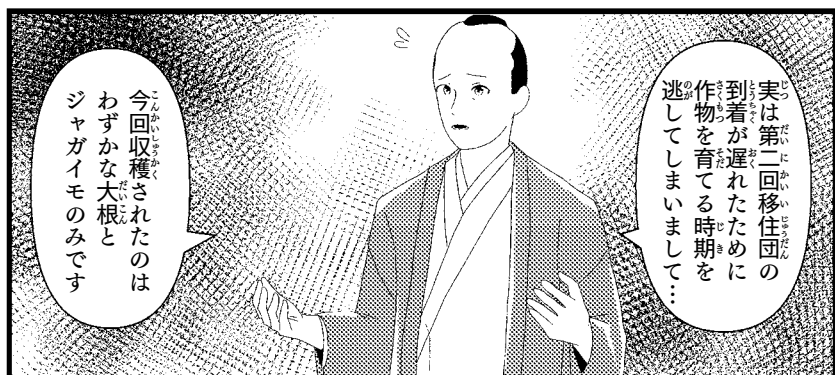


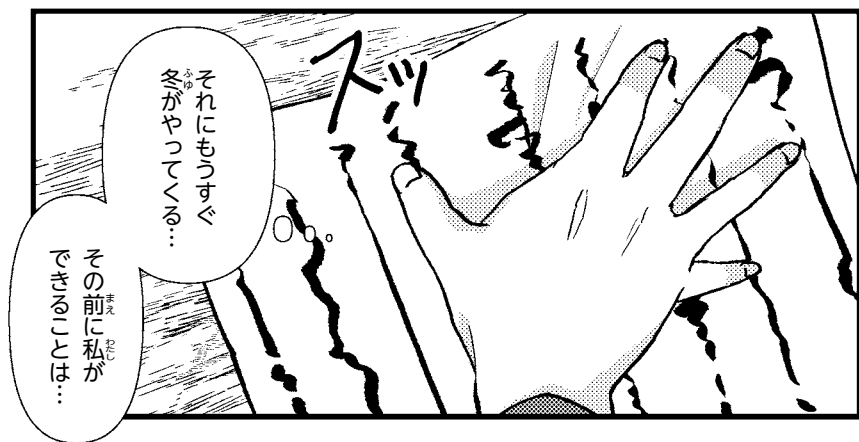
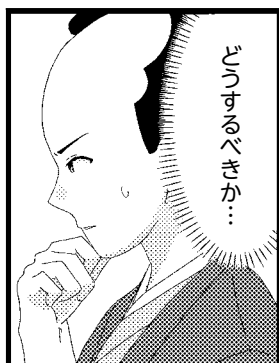




そして8月8日
第二回移住団が
有珠に到着した









この危機を
乗り越えるには
移住に対して
みな
の団結が必要だ

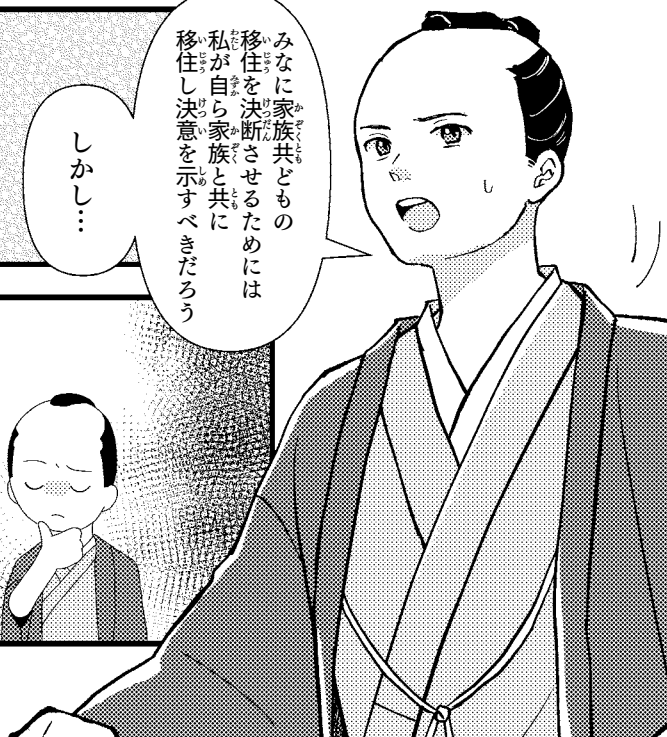


しかし…

みなに家族共どもの
移住を決定させるためには
私が自ら家族と共に
移住し決意を示すべきだろう



邦成には
移住にあたって
気にかかる人物がいた

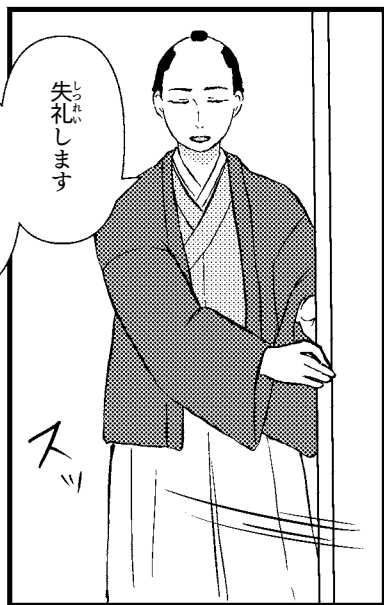
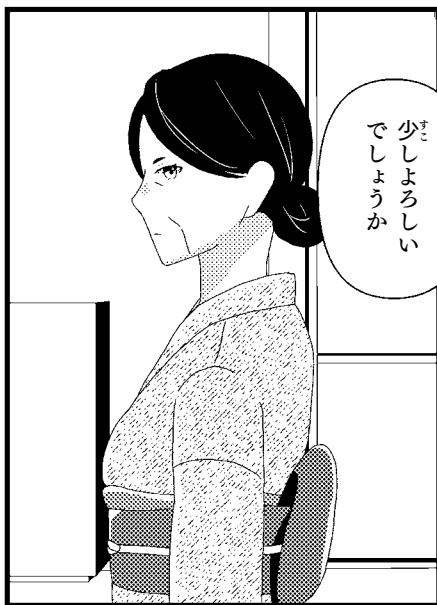
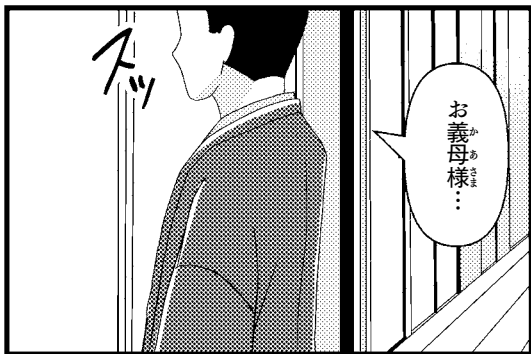
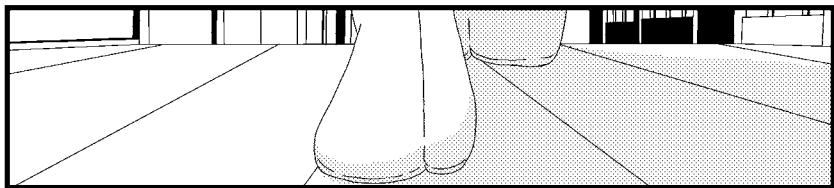


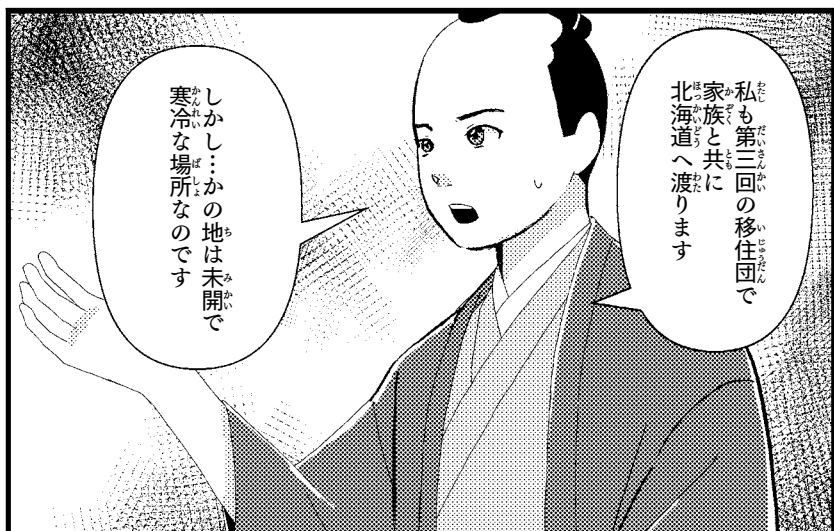
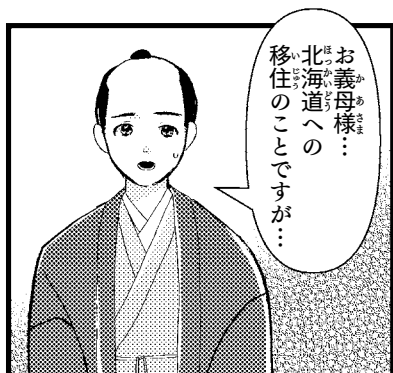


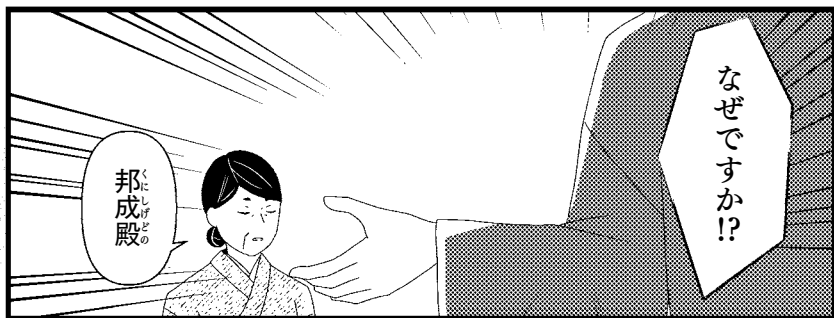
貞操院保子
ていそういんやすこ

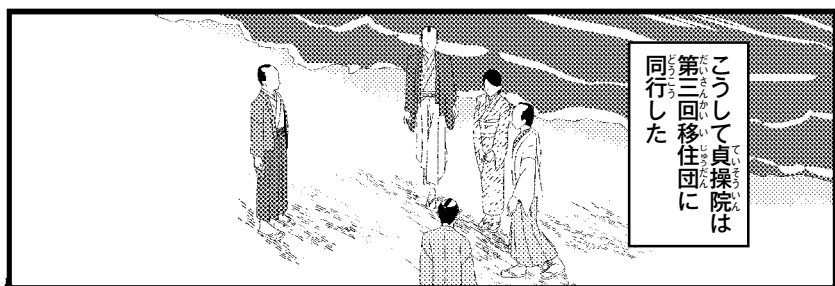
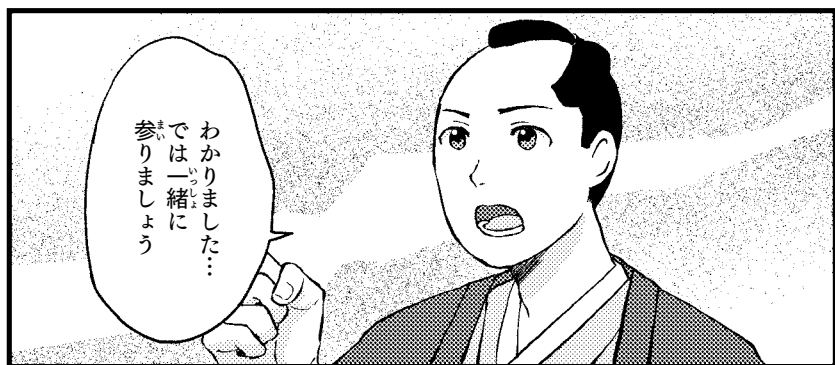
仙台藩主
せんたいはんしゅ
伊達義の
娘であり
巨理伊達家当主
の妹
伊達邦実
に嫁いだ

邦成の義母である
くにしげのぎぼ



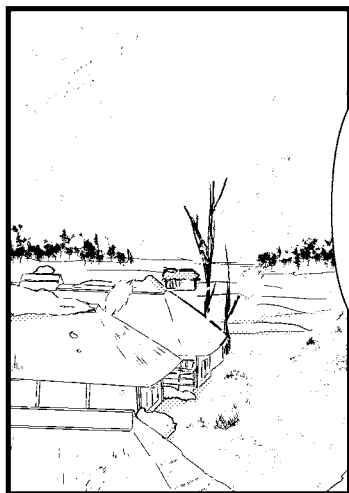






1871年(明治4)
冬 有珠にて

雪が降ってきたな…

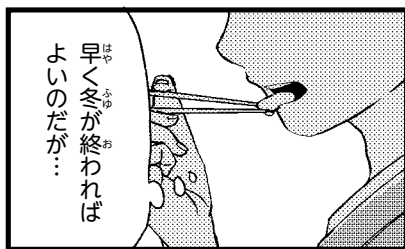


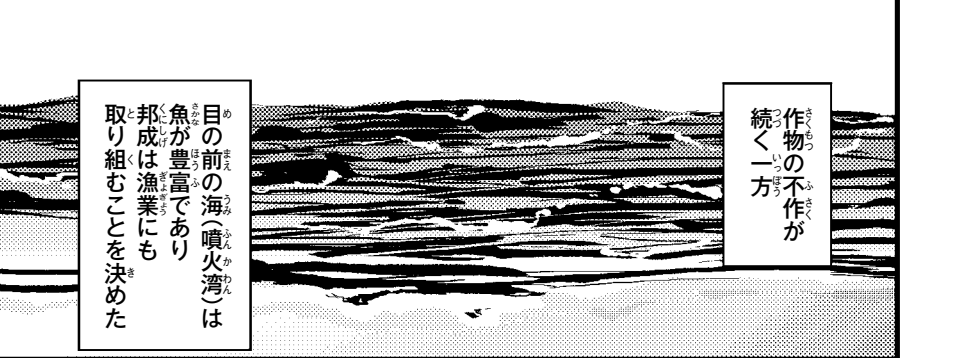
巨理でうまくいっていた
農業ができないとはな

今はこうしてフキや
野草を食べて飢えを
しのぐしかないだろう

ぎゅっ

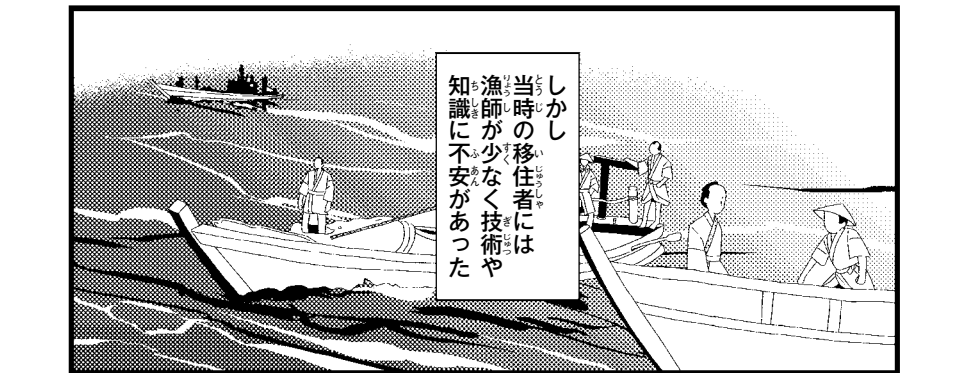
早く冬が終われば
よいのだが…



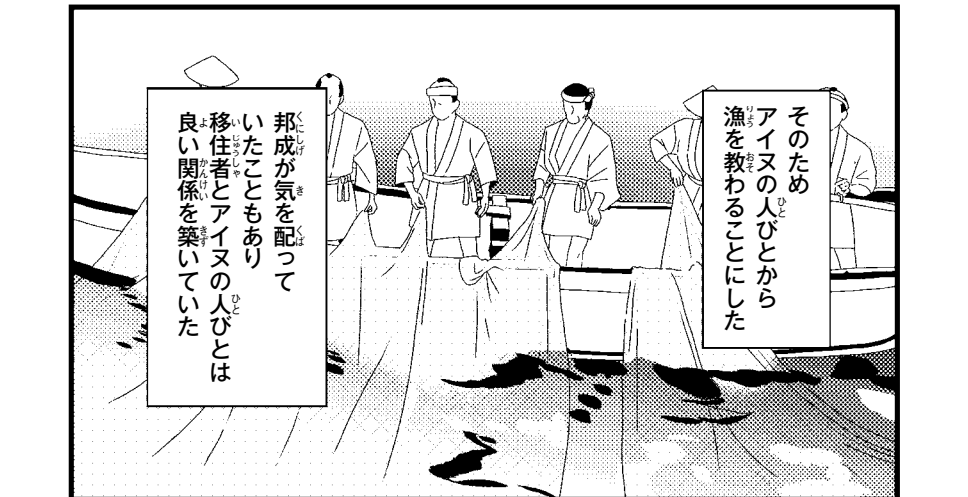


作物の不作が
続く一方

目の前の海（噴火湾）は
魚が豊富であり
邦成は漁業にも
取り組むことを決めた



しかし
当時の移住者には
漁師が少なく技術や
知識に不安があった



そのため
アイヌの人びとから
漁を教わることにした

邦成が気を配って
いたこともあり
移住者とアイヌの人びとは
良い関係を築いていた

しかし
邦成たちの
苦勞は続いた

1871年に
廃藩置県が行われ
北海道も開拓使が
直接支配することになった

私たちがこれまでに
開拓した土地を
返せと!?

どういうことだ!?

政府がそのように
決めたそうです

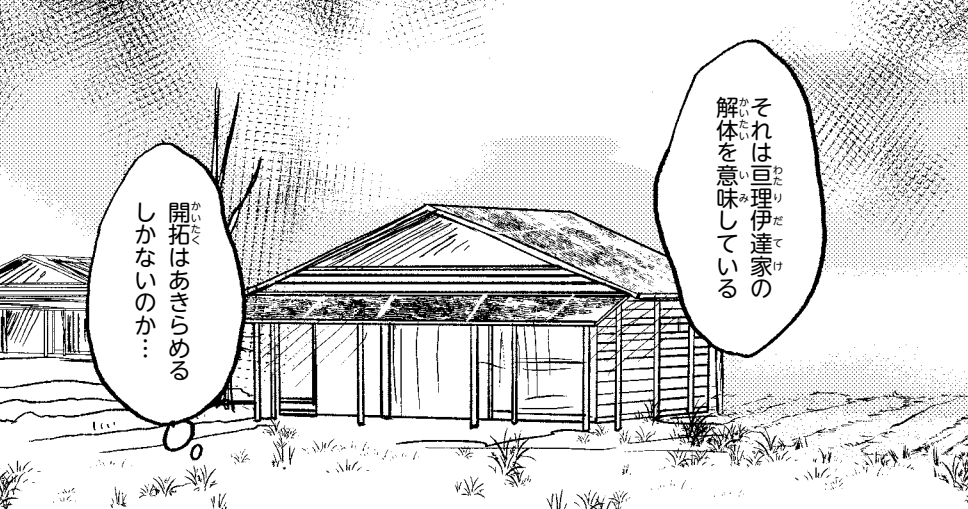
これからは我われに
代わり北海道全てを
政府が直接治める
ことになるように

邦成様は移住民取締役
という役職につき
引き続き有珠郡の開拓を
指導せよとのことです

そんなっ…!!

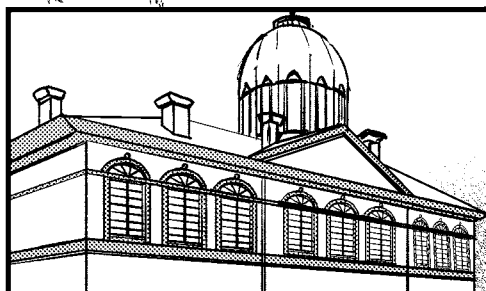
ここで土地を
引き渡すことになるとは…

私が役人になれば
家臣たちとのつながりが
失われてしまう



それは巨理伊達家の
解体を意味している

開拓はあきらめる
しかないのか…



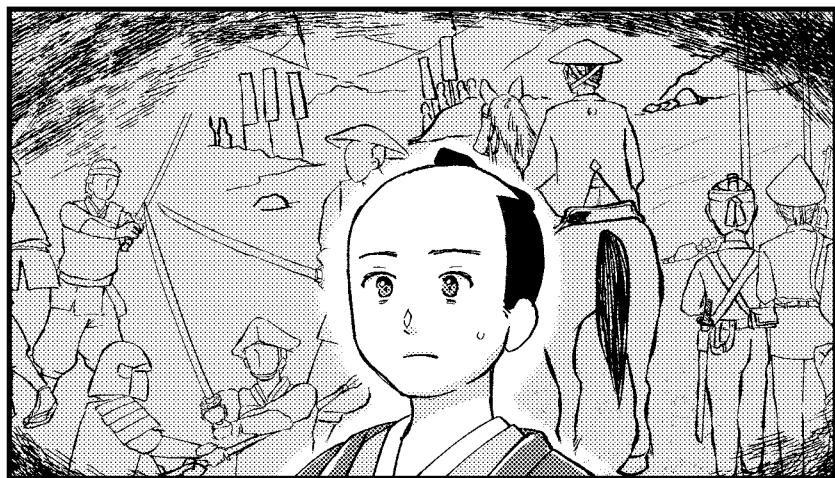
思い悩んだ
邦成は開拓使の
岩村通俊を訪ねた

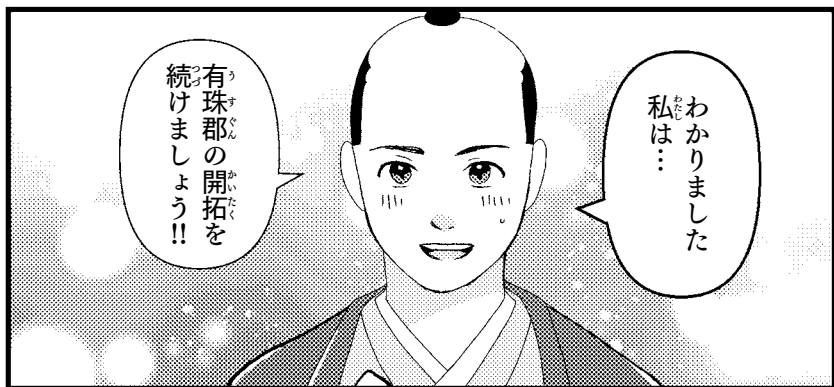
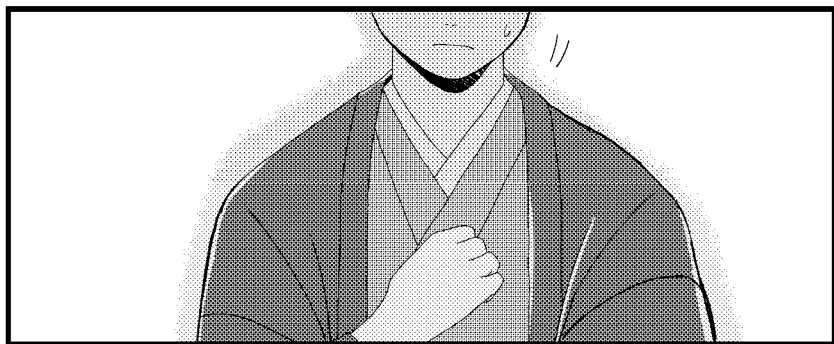
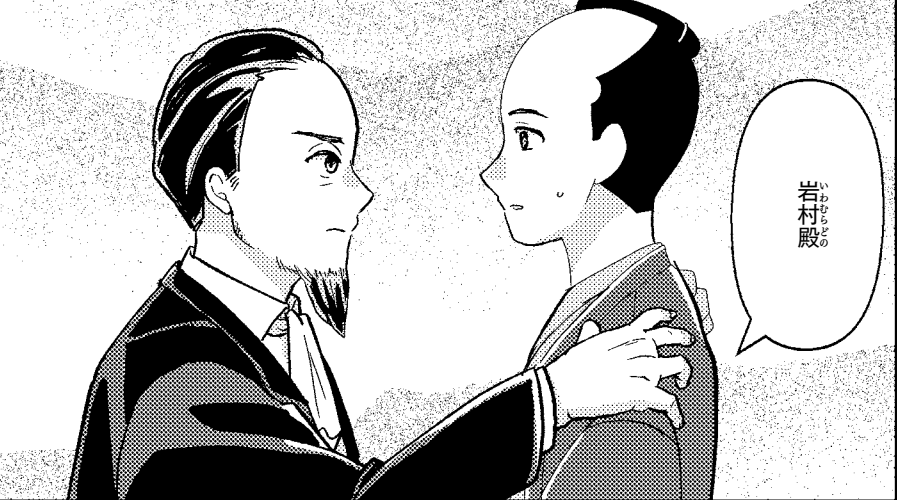


移住民取締役を辞めて
東京で学問を修めたいと
思います



岩村殿
こうなつては
私に指導できることは
ありません

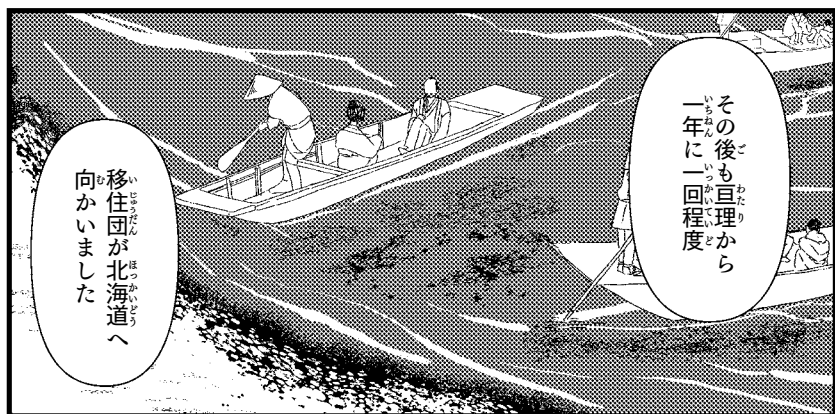


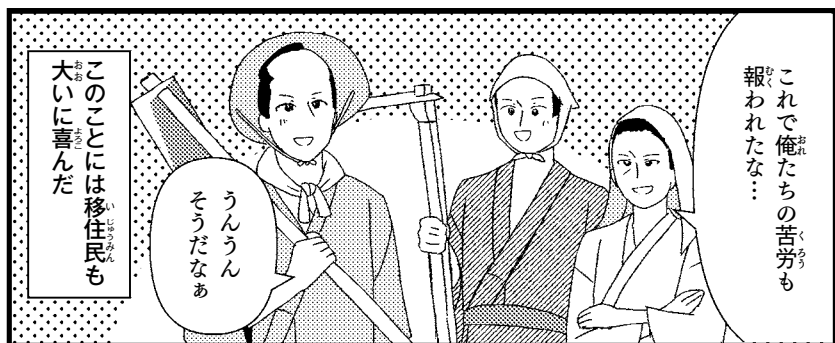
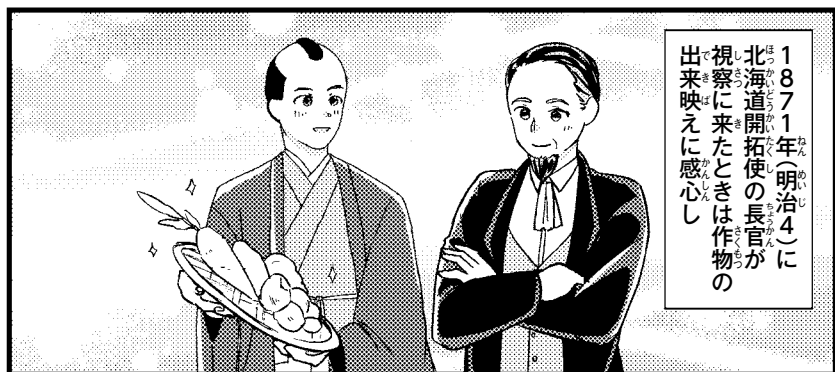
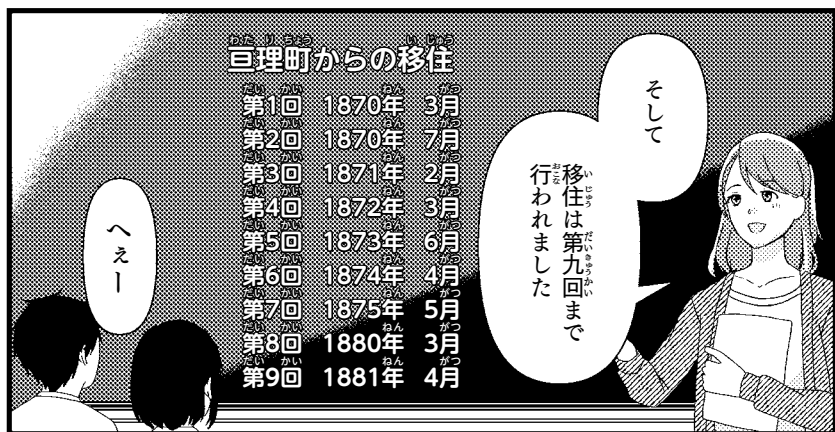


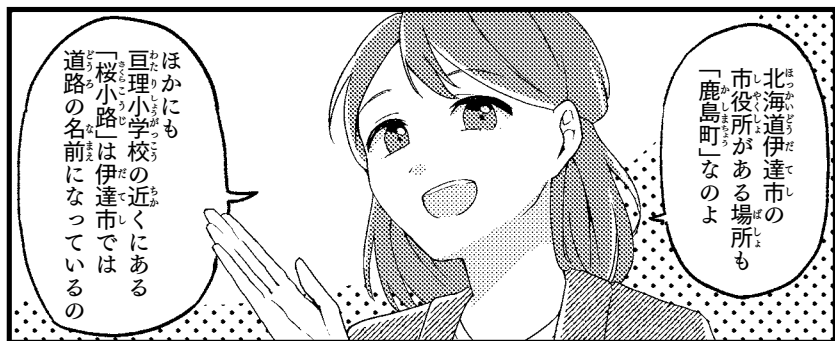
こうして覚悟を決めた
邦成によって
開拓が進められたの

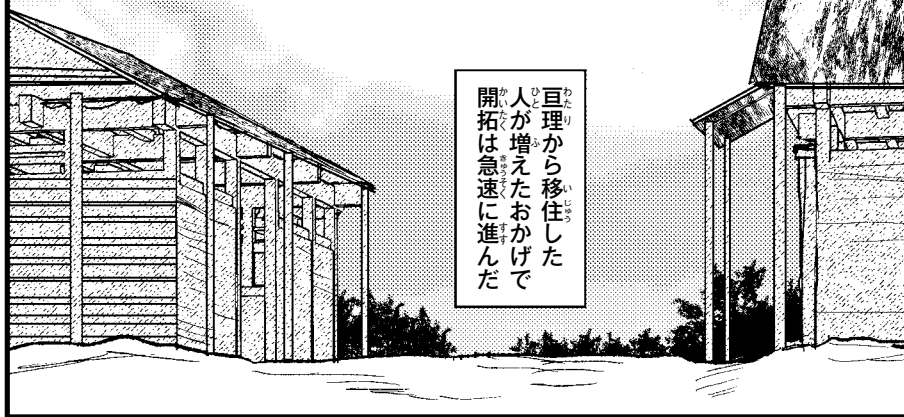
もちろん政府の政策で
やる気が低下して
大変なことも
あっただろうけどね











亙理から移住した
人が増えたおかげで
開拓は急速に進んだ



教育をとても
重視していた
邦成と顕允は
1872年(明治5)に
有珠郷学校※という
学校を建てた



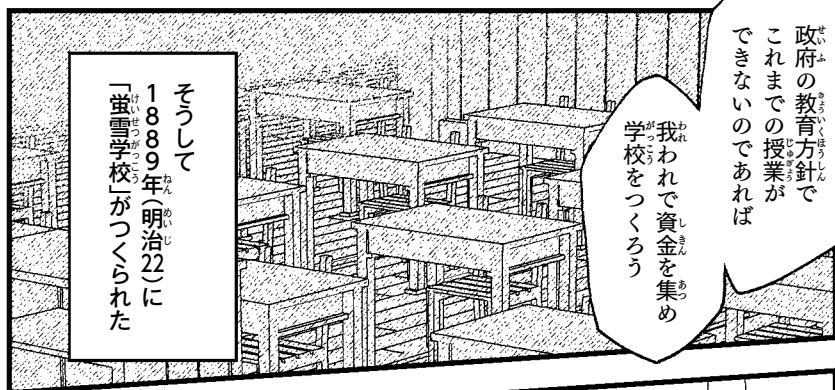
開拓地には
子供たちも増え

※現在の小学校



ほとんどの小学校を
簡易小学校にしてしまった

しかし政府は
1886年(明治19)
「開拓地の教育は簡単な
ものにして子供は
家の手伝いを
するべきだ」と決め



せいふ
政府の教育方針で
これまでの授業が
できないのであれば

われわれで資金を集め
学校をつくろう

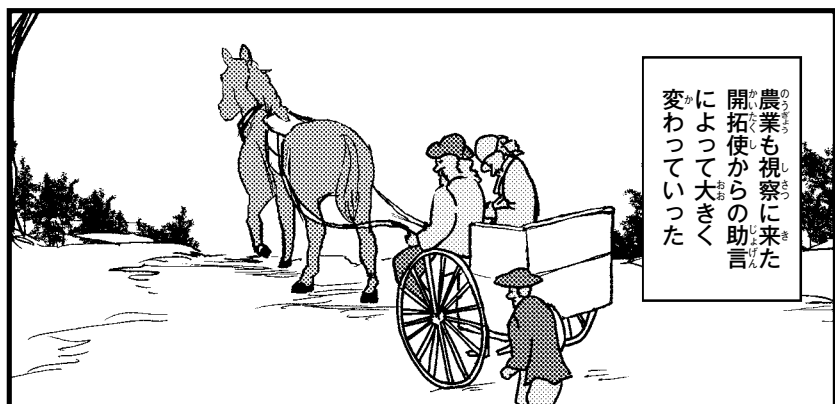
そうして
1889年(明治22)に
「蛭雪学校」がつくられた



その後には
西洋医学の診察が
できる病院もつくられ



開拓地はますます
発展していった



農業も視察に来た
開拓使からの助言
によって大きく
変わっていった

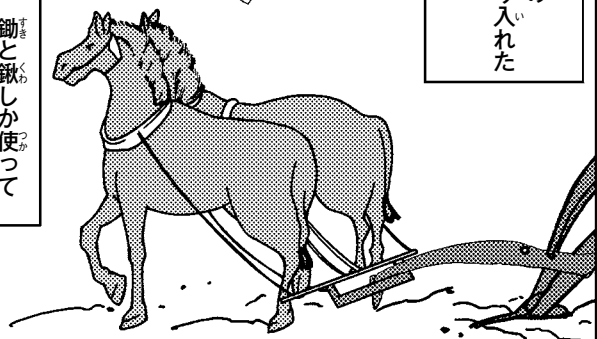


西洋の新しい農具を
使う農業を村の若者たち
に東京で学ばせた

栽培する作物を
何種類かで周期的に
変える輪作という
方法を取り入れ

小麦を中心に
畑作を行い

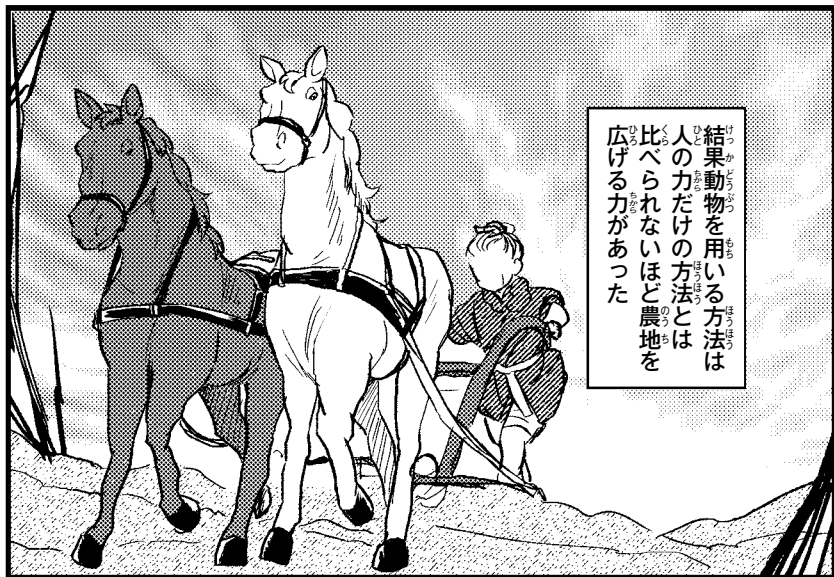
そうして西洋農具の
プラウ（洋犁）を取り入れた
農業が始まった

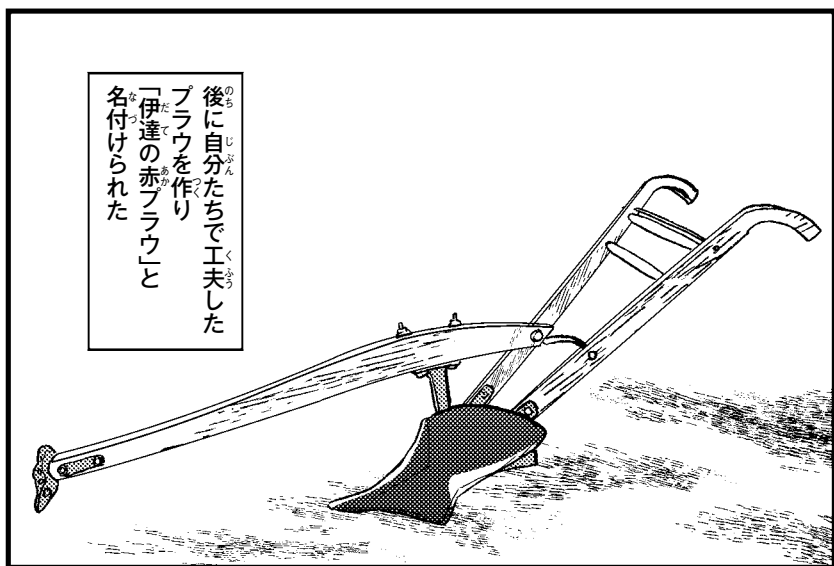


鋤と鍬しか使って
こなかった
当時の人にとって

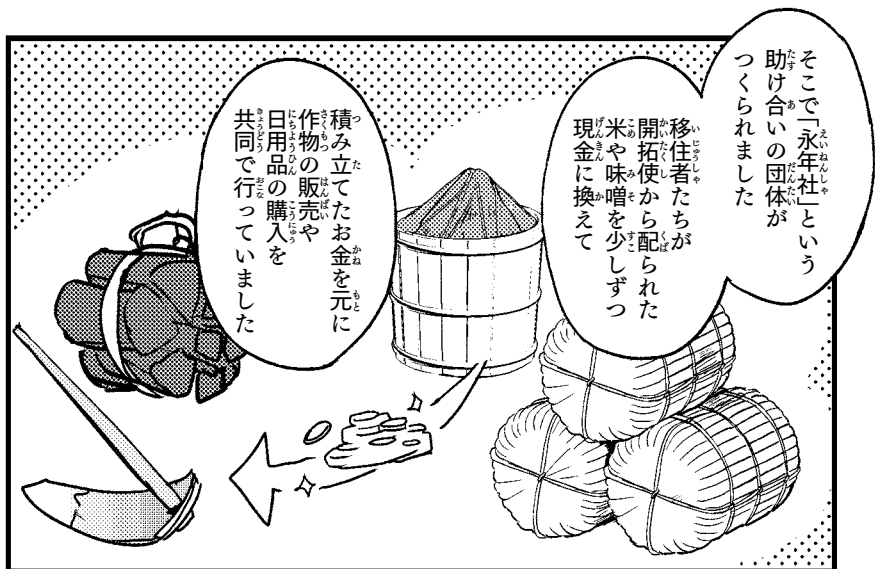
動物を使ったプラウ
による開拓は
驚きだった

結果動物を用いる方法は
人の力だけの方法とは
比べられないほど農地を
広げる力があつた







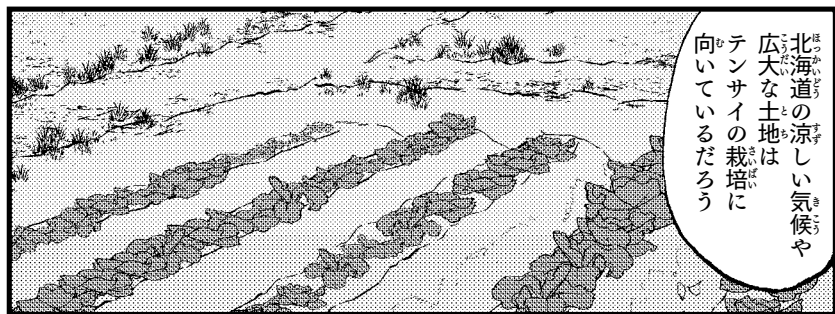


邦成たちに
テンサイの栽培を
提案した



Boys, be ambitious
少年よ 大志を抱け

そうしたなか
有珠郡に立ち寄った
クラーク博士※は



北海道の涼しい気候や
広大な土地は
テンサイの栽培に
向いているだろう

そういえば政府も
テンサイから砂糖を
作る方法を
探しているとか…

なるほど…
テンサイですか

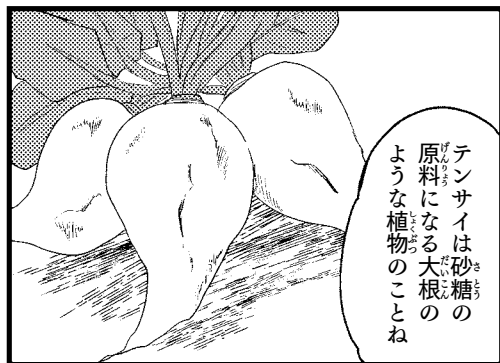


たむら あきよし
田村 顕允

この地はよく
耕されているのだから
ここでもテンサイを
栽培してはどうか？



はかせ
クラーク博士

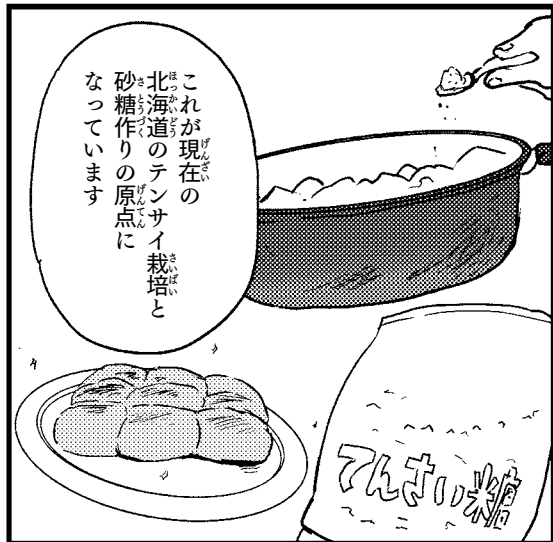


頭^{あき}允^{まさ}の考^{かん}えていたとおり
砂糖^{さとう}作^{つく}りの工^{こう}場^{じょう}の
建^{けん}設^{せつ}地^ちを探^{さが}していた政府^{せいふ}は

有^う珠^す郡^{ぐん}での
テンサイ裁^{さい}培^{ばい}状^{じょう}況^{きょう}を見^みて
こ^こに日^に本^{ほん}初^{はつ}の
政^{せい}府^ふが管^{かん}理^りす
る
砂^さ糖^{とう}作^{つく}りの工^{こう}場^{じょう}を
建^{けん}設^{せつ}すこ^こに
し^{した}



こ^これが現^{げん}在^{ざい}の
北^{ほく}海^{かい}道^{どう}の
テンサイ裁^{さい}培^{ばい}と
砂^さ糖^{とう}作^{つく}りの原^{げん}点^{てん}
に
な^なっ
て
い
ま
す



仙台藩内では
巨理伊達家以外にも
岩出山伊達家などが
北海道開拓を試みたほか

本州各地の藩も
参加した

途中で挫折する
者たちも多かった中

邦成は私財を投げ打って
開拓に取り組み

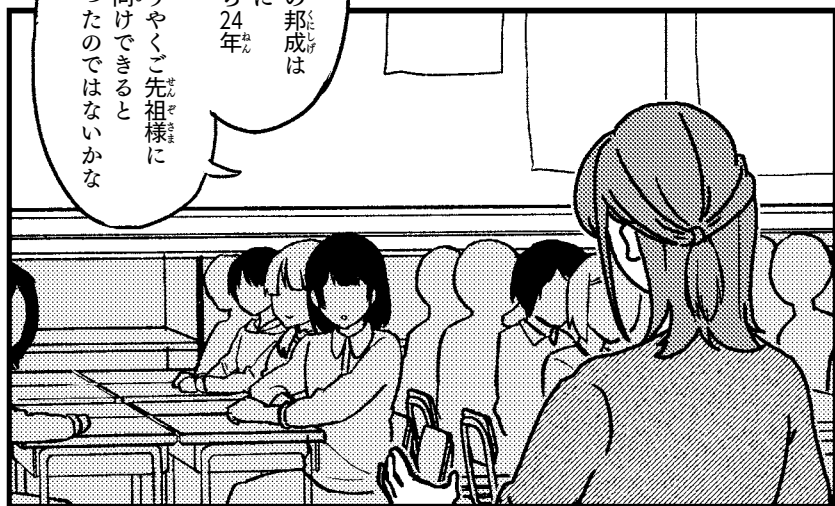
家臣団と共に
成功を収めた

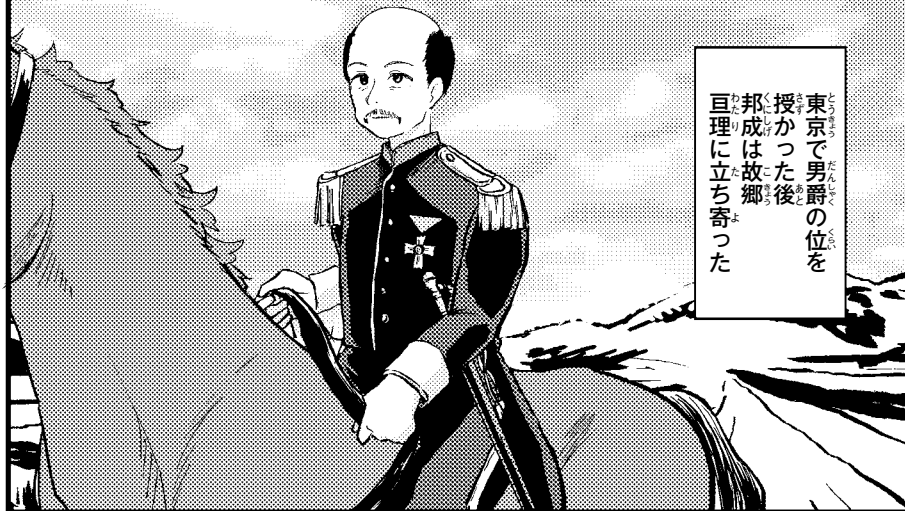
その功績が認められ
1892年(明治25)に
邦成は「男爵」となった

邦成52歳

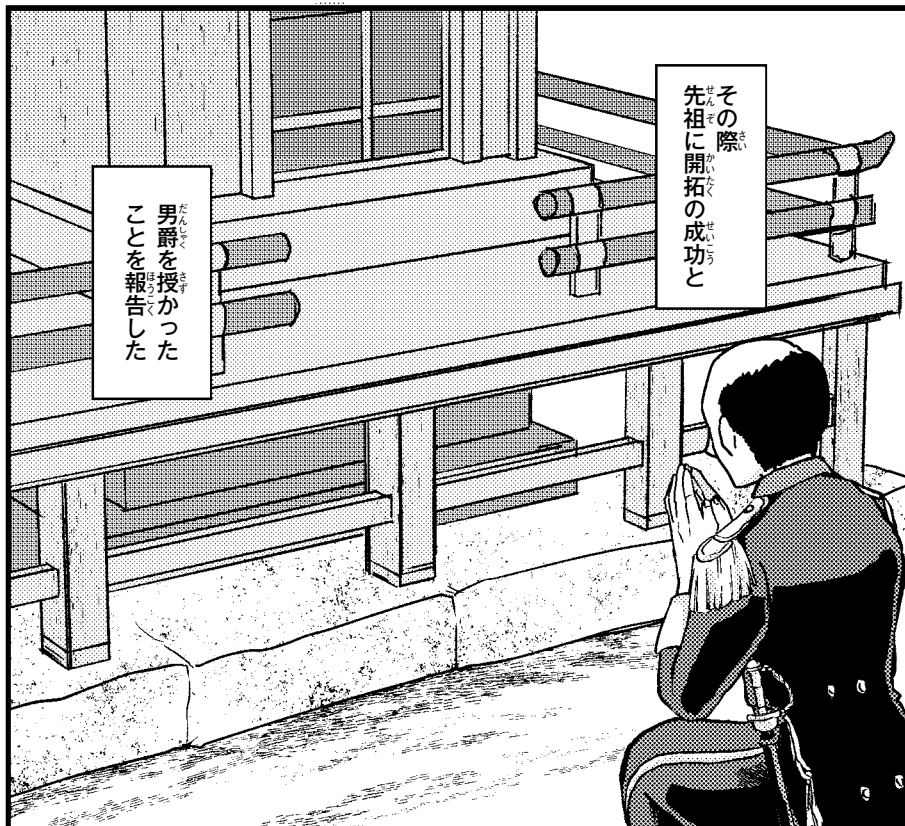
このときの邦成は
戊辰戦争に
敗れてから24年

ようやく先祖様に
顔向けできると
思ったのではないかな





東京で男爵の位を
授かった後、
邦成は故郷
亶理に立ち寄った



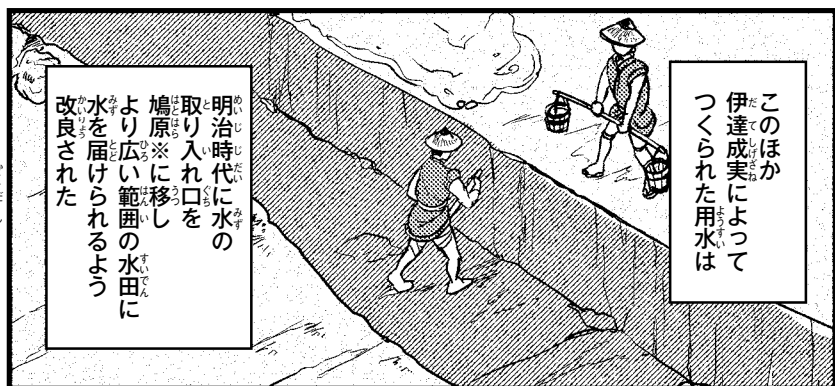
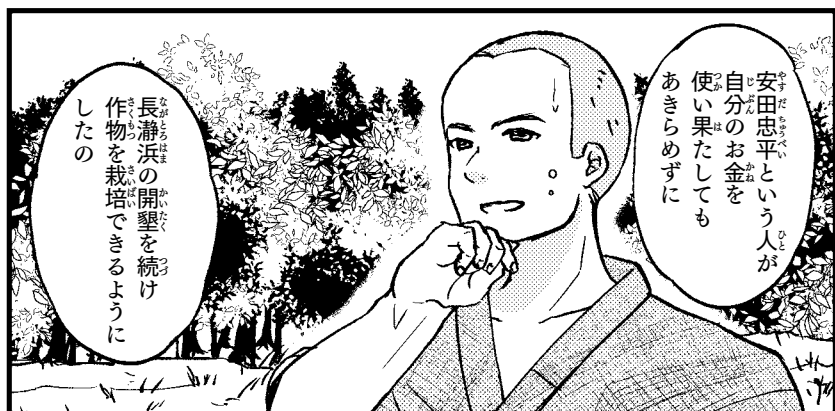
その際
先祖に開拓の成功と

男爵を授かった
ことを報告した

巨理の人びとは
邦成の訪問を喜び
お祝いして
歓迎したみたいなの







※角田市

1879年(明治12)
巨理神社建立

有珠で開拓を進める邦成を見習って

まちづくりを進める
巨理の人びとは
邦成が手本とした
成実を神様とする
神社を建てたの

1897年(明治30)
戊辰戦役の碑建立

その後、神社の境内に
戊辰戦争で亡くなった
人たちの名前を刻んだ
石碑を建てたの

石碑の題字は邦成が
書いたんだけど
戦争で命を落とした
人たちのことを思っ
て書いたんじゃないかな





第五章 受け継がれるもの

—それから

開拓された
有珠郡の地は
のちに巨理伊達家の
名前をとって

伊達村と名付けられ
現在の伊達市へ
発展しました

なほし
伊達市

江戸時代に一緒に
暮らしていた人びとは
戊辰戦争の敗戦を
きっかけに

巨理と伊達
遠く離れた土地で
それぞれ近代化を進め

現在の巨理町と
北海道伊達市の
基礎をつくりました

やたー！

このような歴史から
1981年(昭和56)に

巨理町と伊達市は
「ふるさと姉妹都市」と
なったの

先生!!

「ふるさと姉妹都市」って
何をするんですか？

良い質問
ですね！

この関係を結んだこと
により小学校同士の
交流が盛んになっ
たんですよ

伊達市

ふるさと姉妹都市

亘理町

そのほかにもスポーツや
文化を通じた交流が行われ

伊達市の小・中学生が
交流事業をしたり

修学旅行でお互いに
訪問しあうなど
つながりは深いです

ひがしにほんだいいしんさい
東日本大震災

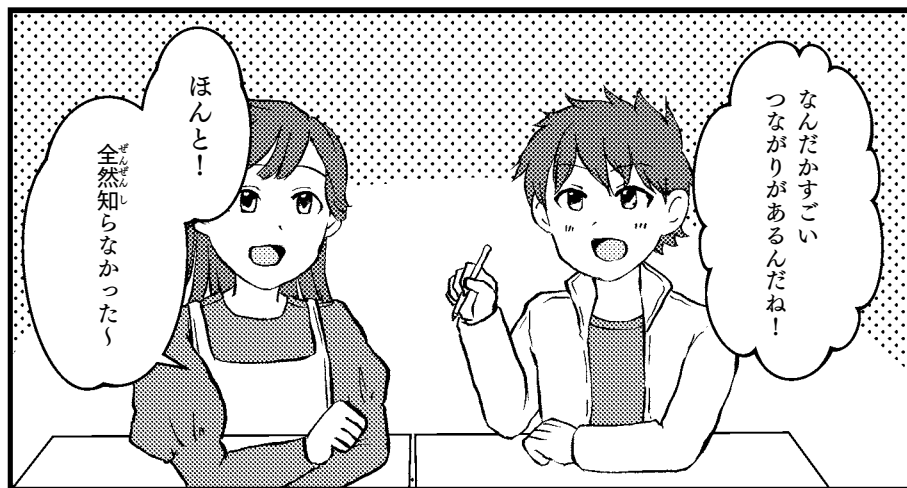
それだけにとどまらず
災害のときには助け合い
共に発展するという
関係が続いているの

うすざんふんか
有珠山噴火

例えば
東日本大震災で
被災した巨理町の
イチゴ農家さんが

伊達市に移住して
イチゴの栽培を
続けているの

へえー!!

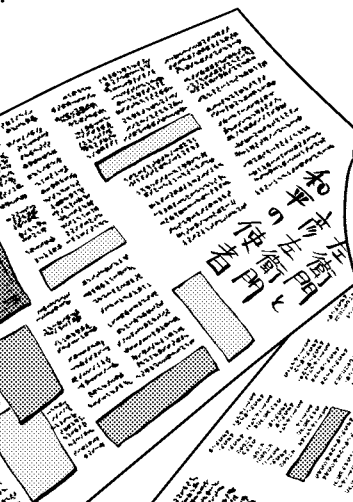




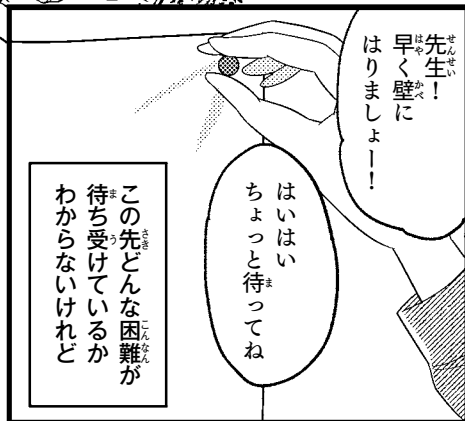




できたー!!



巨理伊達家の
秘伝について



この先どんな困難が
待ち受けているか
わからないけれど

先生!
早く壁に
はりましょー!



すごい!!
みんな上手...



伊達邦成が
伊達市の基礎を作った
その精神を受け継ぐ
私たちだからこそ

東日本大震災の
とても大きな被害にも
立ち向かい

地道な努力を続け
復興を遂げた
私たちだからこそ

みんなには何事にも
あきらめずに一歩ずつ
明るい未来を
つくってもらいたい

ゆうり先生は
そう願うのです

ほっかいどう わた わたり だ て け とのさま
北海道へ渡った亘理伊達家の殿様
だ て くに し げ
伊達邦成をもっと知ろう！！

よう ご い ち ら ん
【用語一覧】

〇〇伊達家	せんだいはんない わた り だ て け いわ で や ま だ て け おお だ 仙台藩内には、亘理伊達家、岩出山伊達家など多くの伊 達姓があるため、藩主以外の伊達家は、のちに領地名を つけて「〇〇伊達家」と区別して呼ばれるようになった。
けいちょうさんりく じ しん 慶長三陸地震	ねん けいちょう がつ ぶつ か げんざい あおもりけん いわ て けん みやぎ 1611年(慶長16)12月2日、現在の青森県、岩手県、宮城 県を襲った地震。この地震による津波被害は「慶長三陸 地震津波」とも呼ばれている。
こく 石	こめ せいさんりょう たん い え ど じ だ い と ち せいさんりよく 米の生産量の単位であり、江戸時代には土地の生産力、 領主の格式を示すのに用いられた。
そう ま はん 相馬藩	え ど じ だ い げんざい ふくしまけんはまどお ぼく ぶ おさ はん 江戸時代、現在の福島県浜通り北部を治めていた藩。
ひ ご はん 肥後藩	え ど じ だ い げんざい くまもとけん だ い ぶ ぶん おさ はん 江戸時代、現在の熊本県の大部分などを治めていた藩。
もりおかはん 盛岡藩	え ど じ だ い げんざい いわ て けんちゅう ぶ おさ はん 江戸時代、現在の岩手県中部などを治めていた藩。
かいたくし 開拓使	ほっかいどうかいたく お ぎょうせい き かん 北海道開拓のために置かれた行政機関。
はいはんちけん 廃藩置県	ねん めい じ おこな せい じ かい かく ぜんこく はん はい し 1871年(明治4)に行われた政治改革。全国の藩を廃止 して府と県に統一した。
プラウ	たね そな つち ほ かえ のう ぐ 種まきに備えて土を掘り返すための農具。
し ぞく そつぞく 士族・卒族	めい じ い しん ご み ぶん かいきゅう わ うえ か ぞく 明治維新後、身分ごとに階級が分けられ、上から華族、 士族・卒族、平民となった。旧武士階級の者には士族・卒 族の身分が与えられ、亘理伊達家の家臣は士族より身 分の低い卒族とされた。
だんしゃく 男爵	めい じ じ だ い こう とつ けん て き み ぶん か ぞく かいきゅう ひと 明治時代以降の特権の身分だった華族の階級の一つ。 華族制度は1947年(昭和22)に廃止された。

【伊達邦成略年表】

1841年(天保12)	岩出山伊達家の伊達義監の次男として生まれる
1859年(安政6)	伊達邦実の死後、養子となり亙理伊達家を継ぐ
1868年 (慶応4／明治元)	戊辰戦争が起こり、湯の原に出陣する 仙台藩が新政府との戦いに敗れ、亙理要害で降伏式が行われる
1869年(明治2)	政府から胆振国有珠郡(現在の北海道伊達市と壮瞥町)の開拓が命じられる
1871年(明治4)	家族と共に北海道へ移住する(第3回移住団)
1892年(明治25)	有珠郡開拓の功績が認められ、男爵になる
1899年(明治32)	明治十二傑の一人に選ばれる(農業部門)
1904年(明治37)	死去(63歳)

『明治十二傑』とは？

日本初の総合雑誌といわれる『太陽』が1899年(明治32)に各方面の発展に貢献した人物12人を選出し、農業家として伊達邦成が選ばれました。

政治家	伊藤 博文	医家	佐藤 進
文学者	加藤 弘之	宗教家	釈 雲照
美術家	橋本 雅邦	軍人	西郷 従道
法律家	はとやま かず お	農業家	伊達 邦成
教育家	ふくざわ ゆ きち	工業家	ふるかわ いち べ え
理学家	伊藤 圭介	商業家	しづさわ えいいち

わたりだてけれきだいとうしゅいちらん
【亙理伊達家歴代当主一覧】

初代 しよだい	さねもと 実元	6代 だいい	さねうじ 実氏	11代 だいい	むらうじ 村氏
2代 だいい	しげさね 成実	7代 だいい	むらしげ 村成	12代 だいい	むねよし 宗賀
3代 だいい	むねさね 宗実	8代 だいい	むらさね 村実	13代 だいい	むねつね 宗恒
4代 だいい	むねしげ 宗成	9代 だいい	むらすみ 村純	14代 だいい	くにさね 邦実
5代 だいい	もとさね 基実	10代 だいい	むらよし 村好	15代 だいい	くにしげ 邦成

＊亙理を治めたのは2代成実からになります。20代当主は現在も伊達市に在住されています。

わたりだてけりょうち
【亙理伊達家の領地】

げんざい わたりちよう こやまちく のぞ みやぎけんやまもとちよう やましたち
現在の亙理町(小山地区を除く)のほか、宮城県山元町の山下地
く まるもりまち いちぶ ふくしまけんしんちまち こまがみね のぞ
区、丸森町の一部、福島県新地町(駒ヶ嶺を除く)があたります。

ほんべん わへい しやう ちようざ えもん ひこざ えもん やまもとちようきゆうやました
本編の和平の使者となった長左衛門・彦左衛門は、山元町旧山下
むら ひやくしやう
村の百姓でした。

だいうじ
【大雄寺】

わたりだてけ ぼだいじ ばんしやうざんだいうじ
亙理伊達家の菩提寺、萬松山大雄寺です。

ねん けいしやう だて しげさね ちちさねもと ぼだいじ し のぶぐん おぐらむら げん
1604年(慶長9)、伊達成実が父実元の菩提寺を信夫郡小倉村(現
ふくしまし わたり し きよじやうあと うつ けいだい
福島市)から亙理氏の居城跡に移したのがはじまりです。境内には、
だいくにしげ のぞ れきだいとうしゅ はか
15代邦成を除く歴代当主の墓

があります。

ねん めいじ くにしげ い
1880年(明治13)、邦成が移
じゆう ほっかいどう だて し わたりちよう
住した北海道伊達市に亙理町
だいうじ なが いぶりさん
大雄寺の流れをくむ、胆振山
だいうじ た
大雄寺が建てられました。



【亙理領主伊達氏歴代墓所】

だいおう し けいだい だ
大雄寺境内にある伊
て しげねたま や しげね
達成実霊屋は、成実が
ねん しゅうほう さい
1646年(正保3)79歳
で亡くなってまもなく
た かんが
建てられたと考えられ
ています。仙台藩にお
けるえどじだいしよ き だい
江戸時代初期を代
ひょう たま や けんちく
表する霊屋建築である
ことから、みやぎ けん し てい
ぶん か ざい
文化財になっています。

たま や ない しげね もく
霊屋内には成実の木
ぞう おさ
像が納められていて、1
がつ にち がつ にち ねん
月16日と8月16日の年
かいおこな ご かいちよう
2回行われる御開帳で
み
見ることができます。

たま や にしがわ
また、霊屋の西側に
れきだいとうしゅ ふ じん
は歴代当主とその夫人
ぼ せき なら
などの墓石が並んでい
ます。歴代当主の墓が
しよ
1か所にまとまってい
るのせんたいはん めづら
のは仙台藩でも珍し
く、ぼしよぜんたい わたり ちよう
墓所全体が亙理町
していぶん か ざい
指定文化財になってい
ます。



わたり じんじゃ 【亘理神社】

かつて、亘理神社の地には亘理要害があり、伊達邦成が北海道に
いじゅう 移住するまで亘理伊達家の居館として使われていました。

1879年(明治12)、亘理の人びとは伊達成実の功績を後世に伝え
ると共に、邦成が手本とした成実にまちづくりを習おうと、成実を神
としてまつり、亘理要害本丸跡に亘理神社を建立しました。



しげざね かみさま な まえ
成実の神様としての名前「武早智
雄命」は、「たけはやちおのみこと」と
よ 読みます。

また、神社の南にある池は内堀の
あと 跡で、本丸跡と合わせて「旧館公園」
として整備されています。神社や公
園がある亘理要害の跡地を、町の
人びとは「おたて」と呼びならわすな
ど、当時の名残りを大切にしていま
す。

【^{ぼ しんせんそうかんけい} 戊辰戦争関係の^{せき ひ} 石碑】

○^{せん し づか ふくしまけんしん ち まち} 戦死塚(福島県新地町)

^{こま が みねじょうあと みなみ}
駒ヶ嶺城跡の南のふもと、
^{せんたいはん し ぼ しんせんぼつ の ひ}
「仙台藩士戊辰戦没之碑」の
^{うし こ だか ぼ しょ た}
後ろの小高い場所に建ってい
^{こま が みね はたまきとうげ まるもり}
ます。駒ヶ嶺と旗巻峠(丸森
^{まち お}
町)が落とされたことにより、
^{くにしげ せんそう しゅうけつ}
邦成たちは戦争を終結させる
^{うご はじ}
ために動き始めます。



○^{ぼ しんせんえき ひ ひだり} 戊辰戦役の碑(左)・^{ぼ しんじゅんなん ねんさい き ねん ひ みぎ} 戊辰殉難50年祭記念碑(右) (^{わたり じんじやけいだい} 巨理神社境内)

^{ひだり}
左は、^{ねん めい じ た}1897年(明治30)に建てられ、^{せん し しゃめい ともしゅうしん ち せん し}戦死者名と共に出身地、戦死
^{がつび ぼ しょ きざ}月日・場所が刻まれています。題字は^{だい じ だてくにしげ か}伊達邦成が書いたものです。



^{みぎ}
右は、^{ぼ しんせんそう}戊辰戦争から
^{ねん ごと ねん たいしょう}50年後の1917年(大正
^{ぼ しんせんそう じゅうぐん}6)に、戊辰戦争の従軍
^{しゃ た}者たちによって建てられ
^{だい じ くにしげ むす}ました。題字は邦成の息
^{こ だ てもとい か り めん}子の伊達基が書き、裏面
^{ほっかいどう い じゅう}には北海道に移住した
^{だて むらひと な まえ}伊達村の人びとの名前
^{きざ}が刻まれています。

おのふかしが 【小野潭画】

小野潭は、第3回移住団で亶理から有珠郡（現在の伊達市など）へ渡った移住者の子として1871年（明治4）に北海道で生まれました。後に、亶理伊達家の開拓の様子を後世に残そうという強い思いから、移住開拓当時の絵を数多く描きました。

しはいち ようす けんぶん 「支配地の様子をつぶさに検分する」



うすわん 「有珠湾のにぎわい」



- 製 作 亶理町偉人マンガ製作・活用検討委員会
- マ ン ガ 学校法人菅原学園 専門学校デジタルアーツ仙台
- 監 修 亶理伊達家文書調査研究会
- 協 力 北海道伊達市教育委員会
宮城県山元町教育委員会
- 参考文献
 - ・渡辺茂編『新稿伊達町史』上巻(三一書房、1972年)
 - ・亶理町史編集委員会編『亶理町史』上巻(宮城県亶理郡亶理町、1975年)
 - ・菅原清三編『写真集 明治大正昭和 伊達』
(ふるさとの思い出116、国書刊行会、1980年)
 - ・亶理町史編集委員会編『亶理小史』(宮城県亶理郡亶理町、1990年)
 - ・『続・戊辰の義人』(山元町教育委員会、1990年)
 - ・小貫文二編『伊達開拓歴史画 小野潭遺作集「樹海を拓く」』
(小野潭開拓歴史画保存会、1992年)
 - ・宮城県亶理郡亶理町企画課編『伊達成実公亶理入府四百年記念 伊達成実』
(亶理町立郷土資料館、2002年)
 - ・津田芳夫『北海道開拓秘話 酷寒の荒野に挑み理想郷建設を目指した人達』
(230クラブ、2003年)
 - ・亶理伊達家文書調査研究会編『北海道伊達市大雄寺所蔵 亶理伊達家中諸家
文書目録 附伊達市蔵「奥州相馬氏野馬追図屏風」』
(亶理伊達家文書調査研究会、2014年)
 - ・作：大宮耕一 画：柳田祐希『北の大地と生きる 海を渡った亶理伊達家臣団』
(伊達市教育委員会、2019年)
 - ・伊達150年物語の会編『侍たちの北海道―亶理伊達武士団の挑戦―』
(伊達150年物語の会、2019年)

マンガ ふるさとの偉人

「北海道へ渡った亶理伊達家の殿様 伊達邦成」

本書は公益財団法人 日本財団、公益財団法人B&G財団
からの助成金を受けて作製しております。

発行日 2024年3月25日

発行人 亶理町教育委員会

編集・印刷所 株式会社 ユーメディア

マンガふるさとの偉人



北海道へ渡った亘理伊達家の殿様

伊達邦成

※表紙の背景と裏表紙の挿絵は、亘理町中央公民館大ホールの緞帳に描かれている
小野潭画「第一回移住者室蘭に上陸」をモチーフにしています。

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

